

令和4年度

事業報告書

(自)令和4年4月1日

(至)令和5年3月31日

社会福祉法人 愛光園

令和4年度の主な事業報告

社会福祉法人 愛光園

社会福祉事業

新規事業

- ありません

主な内容

- 虐待事件の第三者検証委員会の報告書を受けて、法人の取組についての説明会を開催しました。
- 権利擁護意識の向上のために虐待防止・身体拘束適正化の研修を全職員対象に実施しました。
- 面談を全職員年2回以上実施してコミュニケーション円滑化を図りました。
- 新型コロナウイルス感染や濃厚接触により利用制限など多くの利用者・事業所に影響しました。
- 技能実習生フィリピン2名、ベトナム2名が3年期間満了で帰国しました。
- 木鶏会を高齡事業部の管理職・監督職と合同で毎月1回開催しました。
- 新しい人事システム導入に向けて説明と意見聴取、見直しを行いました。
- 次期中期経営計画（令和5～7年度）の策定をすすめ、経営改善や事業再編に向けた検討しました。

公益事業

新規事業

- ありません

主な内容

- 新型コロナウイルスのクラスターによる影響で大きく減収となりました。
- 認知症対応型共同生活援助もくせいの家を11月末で休止としました。
- 権利擁護意識の向上のために虐待防止・身体拘束適正化の研修を全職員対象に実施しました。
- 面談を全職員年2回以上実施してコミュニケーション円滑化を図りました。
- 木鶏会を障がい事業部の管理職と合同で毎月1回開催しました。
- 新しい人事システム導入に向けて説明と意見聴取、見直しを行いました。
- 相生の第5期改修工事は機材を確保し令和5年4月着工としました。
- ネパールから特定技能1名、ベトナムからフエ科学大学・三法人連携の技能実習生1名の受入をしました。
- 次期中期経営計画（令和5～7年度）の策定をすすめ、経営改善や事業再編に向けた検討しました。

収益事業

実施していません。

以上

社会福祉法人事業報告書
令和5年3月31日現在

I 基本情報

所轄庁	都道府県											
法人名	社会福祉法人 愛光園		主たる事務所の所在地	〒 470 - 2102	愛知県知多郡東浦町大字 緒川字東米田33番3		電話番号	0562 - 83 - 9835	FAX番号	0562 - 83 - 4344		
ホームページアドレス	http://www.aikouen.jp/index.html		メールアドレス	honbu@aikouen.jp		設立認可年月日	昭和48年1月10日		設立登記年月日	昭和48年3月3日		
代表者	氏名	年齢	住所		職業	就任年月日						
	日高 啓治	公表	62	公表	愛知県知多郡東浦町大字緒川相生の丘1-5	愛光園理事長	令和3年6月25日					

II 事業

社会福祉事業	種類	施設名・事業所名	所在地	事業開始年月日	定員	実施形態		
						各分野の事業が同一施設(敷地)で実施	全ての事業が同一施設(敷地)で実施	
児童福祉	第一種	障害児通所支援事業	児童発達支援	大府市発達支援センターおひさま	大府市江端町6丁目19番地	平成17年4月1日	30	
		障害児通所支援事業	保育所等訪問支援	大府市発達支援センターおひさま	大府市江端町6丁目19番地	平成27年4月1日		
		障害児相談支援事業	障害児相談支援事業	大府市発達支援センターおひさま	大府市江端町6丁目19番地	平成27年4月1日		
		障害児通所支援事業	放課後等デイサービス	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成27年4月1日	10	
		障害児相談支援事業	障害児相談支援事業	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成29年4月1日		
		障害児相談支援事業	障害児相談支援事業	こだま	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成25年12月1日		
老人福祉	第二種	老人デイサービス事業	老人デイサービス事業	こぶし	知多郡東浦町大字緒川字上苧又池58番地1	平成12年5月1日	30	
		老人居宅介護等事業	老人居宅介護等事業	相生ヘルパーステーション	知多郡東浦町大字緒川字上苧又池58番地1	平成12年5月1日		
		認知症対応型老人共同生活援助事業	認知症対応型老人共同生活援助事業	もくせいの家	知多郡東浦町大字緒川字上苧又池58番地1	平成12年4月15日	休止	
障害者福祉	第一種	障害者支援施設	障害者支援施設	ひかりのさとのぞみの家	知多郡東浦町大字緒川字東米田56	昭和53年5月1日	40	
		障害者支援施設	障害者支援施設	まどか	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	昭和60年4月1日	40	
		障害福祉サービス事業	生活介護事業	ひかりのさとのぞみの家	知多郡東浦町大字緒川字東米田56	昭和53年5月1日	50	
		障害福祉サービス事業	生活介護事業	まどか	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	昭和60年4月1日	40	
		障害福祉サービス事業	短期入所事業	ひかりのさとのぞみの家	知多郡東浦町大字緒川字東米田56	平成4年4月1日	4	
		障害福祉サービス事業	短期入所事業	まどか	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成4年4月1日	2+空床	
		障害福祉サービス事業	生活介護事業	障がい者活動センター愛光園	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-8	平成1年4月1日	36	
		障害福祉サービス事業	生活介護事業	阿久比町立もちの木園	知多郡阿久比町大字卯坂字下同志鐘40-3	平成24年3月1日	10	
		障害福祉サービス事業	就労継続支援事業B型	阿久比町立もちの木園	知多郡阿久比町大字卯坂字下同志鐘40-3	平成24年3月1日	10	
		障害福祉サービス事業	生活介護事業	ひかりのさとファーム	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-4	平成11年4月1日	30	
		障害福祉サービス事業	就労継続支援事業B型	ひかりのさとファーム	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-4	平成11年4月1日	10	
		障害福祉サービス事業	就労移行支援事業	就職トレーニングセンター	大府市共和町7丁目581番地	平成23年5月1日	20	
		障害福祉サービス事業	就労定着支援事業	就職トレーニングセンター	大府市共和町7丁目581番地	平成30年8月1日	40	
		障害福祉サービス事業	短期入所事業	相生	知多郡東浦町大字緒川字東米田16	平成20年6月1日	空床	
		障害福祉サービス事業	共同生活援助事業	愛光園地域居住サポートセンター	知多郡東浦町大字緒川字東米田33-3	平成18年10月1日	54	
障害福祉サービス事業	居宅介護事業	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成13年4月1日				

障害者福祉	第一種	障害福祉サービス事業	共同生活援助事業	地域生活支援センターりんく	大府市江端町5丁目179	平成16年6月1日	30
		障害福祉サービス事業	居宅介護事業	地域生活支援センターりんく	大府市江端町5丁目179	平成18年10月1日	
		障害福祉サービス事業	共同生活援助事業	あつたか生活支援センター	知多郡東浦町大字緒川字東米田26-4	平成27年7月1日	10
		福祉ホーム	福祉ホーム	びわの木	知多郡東浦町大字緒川字東米田33-3	平成11年4月1日	5
		移動支援	移動支援	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成18年10月1日	
		移動支援	移動支援	地域生活支援センターりんく	大府市江端町5丁目179	平成18年10月1日	
		基幹相談支援センター	基幹相談支援センター	阿久比町障がい者相談支援センター	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成29年4月1日	
		基幹相談支援センター	基幹相談支援センター	ひがしうら相談支援センター	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成29年4月1日	
		一般相談支援事業	一般相談支援事業	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成24年4月1日	
		特定相談支援事業	特定相談支援事業	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成24年4月1日	
		一般相談支援事業	一般相談支援事業	こだま	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成25年12月1日	
		特定相談支援事業	特定相談支援事業	こだま	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成25年12月1日	
		その他	第二種				

公益事業	種類(番号を記載)	事業名	施設名・事業所名	所在地	事業開始年月日	事業規模(定員)
	12	介護老人保健施設	相生	知多郡東浦町大字緒川字東米田16	平成8年10月30日	100
12	通所リハビリテーション	相生	知多郡東浦町大字緒川字東米田16	平成8年10月30日	30	
12	居宅介護支援事業	相生	知多郡東浦町大字緒川字東米田16	平成12年4月1日		
2	障害児・者在宅生活支援事業(レスパイト)	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成13年4月1日		
1	障害児等療育支援事業	知多地域障害者生活支援センターらいふ	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成8年10月1日		
2	障害者就業・生活支援センター	知多地域障害者就業・生活支援センター ワーク	知多郡東浦町大字緒川字寿久茂129	平成16年7月1日		
2	日中一時支援事業	まどか	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成18年10月1日	2	
2	日中一時支援事業	ひかりのさとファーム	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-4	平成18年10月1日	5	
1 必要な者に対し、相談、情報提供・助言、行政や福祉・保健・医療サービス事業者等との連絡調整を行う等の事業 2 必要な者に対し、入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業 3 入浴等の支援が必要な者、独力では住居の確保が困難な者等に対し、住居を提供又は確保する事業 4 日常生活を営むのに支障がある状態の軽減又は悪化の防止に関する事業 5 入所施設からの退院・退所を支援する事業 6 子育て支援に関する事業 7 福祉用具その他の用具又は機器及び住環境に関する情報の収集・整理・提供に関する事業 8 ボランティアの育成に関する事業 9 社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業(社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士・保育士・コミュニケーション支援者等の養成事業等) 10 社会福祉に関する調査研究等 11 事業規模要件を満たさないために社会福祉事業に含まれない事業 12 介護保険法の居宅サービス事業、地域密着型サービス事業、介護予防サービス事業、地域密着型介護予防サービス事業、居宅介護支援事業、介護予防支援事業、介護老人保健施設地域支援事業を市町村から受託する事業 13 有料老人ホーム 14 社会福祉協議会等において、社会福祉協議会活動等に参加する者の福利厚生を図ることを目的として、宿泊所、保養所、食堂等を経営する事業 15 公益的事業を行う団体に事務所等として無償又は実費に近い対価で使用させるために会館等を経営する事業 16 その他 ()						

収益事業	種類(番号を記載)	施設名・事業所名	所在地	事業開始年月日	事業規模(定員)
	1 法人の所有する不動産を活用して行う貸ビル 2 駐車場の経営 3 公共的、公共的施設内の売店の経営 4 その他 ()				
その他の事業	種類(番号を記載)	施設名・事業所名	所在地	事業開始年月日	事業規模(定員)
	4	ひかりのさとのもみの家	知多郡東浦町大字緒川字東米田56	平成25年2月1日	
	4	まどか	知多郡東浦町大字緒川字東米田23	平成25年2月1日	
	4	就職トレーニングセンター	大府市共和町7丁目581番地	平成25年2月1日	
	4	ひかりのさとファーム	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-4	平成25年2月1日	
	4	障がい者活動センター愛光園	知多郡東浦町大字緒川字下米田37-8	平成25年2月1日	
1 介護保険、障害福祉サービス等における低所得者の利用者負担減免 2 地域の単身高齢者等を対象とした見守り・配食サービス等の実施 3 地域の単身高齢者等を対象とした各種相談事業の実施 4 災害時における各種支援活動の実施 5 貧困・生活困窮者等を対象とした住宅の斡旋、食事提供等の生活支援の実施 6 他法人との連携による人材育成事業 7 その他 ()					

III 組織

理事	定員		現員		役職	氏名	職業	任期	親族等特殊関係者の有無			資格				施設整備又は運営と密接に関連する業務を行う者	理事報酬 (職員と兼務の場合は支給方法)				理事会への出席回数
	6~9	8	親族	他の社会福祉法人の役員					その他	社会福祉事業の学識経験者	地域の福祉関係者	施設長	その他	理事報酬・職員給与ともに支給	理事報酬のみ支給		職員給与のみ支給	支給なし			
理事					理事	日高 啓治	愛光園理事長	令和3年6月25日 ~ 令和5年6月定時評議委員会				○						○			4
理事					理事	廣瀬 治代	無職	令和3年6月25日 ~ 令和5年6月定時評議委員会		○		○						○			4
理事					理事	安井 孝昭	大府市社会福祉協議会副会長	令和3年6月25日 ~ 令和5年6月定時評議委員会		○		○						○			4
理事					理事	青山 誠	知的障がい事業部長	令和3年6月25日 ~ 令和5年6月定時評議委員会				○		○					○		3
理事					理事	倉科由加子	身体障がい事業部長	令和3年6月25日 ~ 令和5年6月定時評議委員会				○		○					○		4
理事					理事	湯浅 修治	高齢事業部長	令和3年6月25日 ~ 令和5年6月定時評議委員会				○							○		4
理事					理事	市野 恵	サポートちた代表理事	令和4年4月1日 ~ 令和5年6月定時評議委員会		○		○						○			3
理事					理事	長坂 宏	新城福祉会業務執行理事	令和4年6月24日 ~ 令和5年6月定時評議委員会		○		○						○			3

監事	定員	現員											施設整備又は運営と密接に関連する業務を行う者	監事報酬		理事会への出席回数					
	2	2																			
	氏名			職業			任期			資格											
										財務諸表等を監査し得る者				社会福祉事業の学識経験者	地域の福祉関係者	その他					
									公認会計士、税理士	弁護士	会社等の監査役、経理責任者等	その他									
	井村 徳光			無(前東浦町長)			令和3年6月25日 ~ 令和5年6月定時評議員会					○						○		4	
	鳥居 翼			税理士			令和3年6月25日 ~ 令和5年6月定時評議員会			○								○		3	
評議員	定員	現員											施設整備又は運営と密接に関連する業務を行う者	理事との兼務	職員との兼務	評議員への出席回数					
	7~10	9																			
	氏名			職業			任期			親族等特殊関係者の有無							理事の親族	資格			
									親族	他の社会福祉法人の役員	その他	社会福祉事業の学識経験者	地域の福祉関係者	地域の代表者	施設長	利用者の家族の代表		その他			
	戸田 宗明			無職(元副町長)			令和3年6月25日 ~ 令和7年6月定時評議員会														3
	宮池 始			無職			令和3年6月25日 ~ 令和7年6月定時評議員会														3
	山本 直彦			(医)共和会理事長			令和3年6月25日 ~ 令和7年6月定時評議員会				○										1
	稲葉 富子			無職			令和3年6月25日 ~ 令和7年6月定時評議員会														3
	関 香津美			無職			令和3年6月25日 ~ 令和7年6月定時評議員会														2
	藤澤 稔			(医)藤樹会理事長			令和3年6月25日 ~ 令和7年6月定時評議員会														3
	牧野 清光			無職			令和3年6月25日 ~ 令和7年6月定時評議員会				○										3
	杉浦 政代			保護司			令和3年6月25日 ~ 令和7年6月定時評議員会														3
	高見 靖雄			東浦町社会福祉協議会事務局長			令和3年6月25日 ~ 令和7年6月定時評議員会														3

事業所 長	施設名		氏名	就任年月日	法令等に定める資格の有無
	ひかりのさとのおぞみの家		倉科 由加子	平成28年4月1日	有
	まどか		青山 誠	令和3年6月1日	有
	相生・通所リハビリ		三島 隆寛	令和2年3月1日	有
	障がい者活動センター愛光園		松澤 賢治	令和2年4月1日	有
	ひかりのさとファーム		東 悟	令和2年4月1日	有
	愛光園地域居住サポートセンター		小野 嘉久	令和3年4月1日	有
	あったか生活支援センター		小野 嘉久	令和3年4月1日	有
	阿久比町立もちの木園		堀田 学	平成30年4月1日	有
	就職トレーニングセンター		辻 孝志	平成30年4月1日	有
	知多地域障害者生活支援センターらいつ		桑山 利和	令和3年4月1日	有
	こだま		桑山 利和	令和3年4月1日	有
	地域生活支援センターりんく		清水 晶	令和3年4月1日	有
	大府市発達支援センターおひさま		東 千恵子	平成28年4月1日	有
	こぶし		日高 啓治	令和3年6月1日	有
	もくせいの家		湯浅 修治	平成27年4月1日	有
	相生ヘルパーステーション		皿井 常之	令和3年6月1日	有
相生居宅介護支援事業所		湯浅 修治	平成27年4月1日	有	
職員	常勤専従	常勤兼務		非常勤	
			換算数		換算数
法人本部	10	0	0	3	2.6
施設	190	0	0	261	146.3

	開催年月日	出席者数	監事出席の有無	決議事項
	理事会	令和4年6月2日	7	有
令和4年9月1日		7	有	[決議事項] (1) 老人保健施設相生ねむのき棟空調設備更新等工事について (2) 規程の改正の件 [報告事項] (1) 理事長・業務執行理事の業務執行報告 (2) 中期計画検討状況の報告 (3) 社会福祉法人設立50周年について
令和4年10月6日		8	有	[決議事項] (1) 相生ねむのき棟空調設備更新等工事の入札結果と契約について
令和4年12月1日		7	有	[決議事項] (1) 令和4年度第2次補正予算の件 (2) 臨時評議員会招集の件 [報告事項] (1) 理事長・業務執行理事の業務執行報告 (2) 令和4年度事業計画中間報告 (3) 中期計画・経営改善作成進捗報告 (4) 来年度組織体制案について (5) 不適切事案について (6) 誓いの日について (7) 11月25日運営協議会報告
令和5年3月2日		8	有	[決議事項] (1) 令和4年度 第3次補正予算の承認の件 (2) 令和5年度 事業計画と予算の承認の件 (3) 中期計画の承認の件 (4) 規程の改正の承認の件 (5) 第2回定時評議員会の召集の件 [報告事項] (1) 苦情解決第三者委員会について (2) 理事長・業務執行理事の業務執行報告について (3) 不適切事案について

	開催年月日	出席者数	監事出席の有無	決議事項
	評議員会	令和5年6月24日	9	有
令和4年12月14日		8	有	[決議事項] (1) 令和4年度第2次補正予算の件 [報告事項] (1) 令和4年度 事業計画中間報告 (2) 中期計画・経営改善作成進捗報告 (3) 来年度組織体制案について (4) 不適切事案について (5) 11月25日運営協議会報告 (6) 誓いの日について
令和5年3月23日		6	有	[決議事項] (1) 令和4年度第3次補正予算の件 (2) 令和5年度事業計画と予算の承認の件 [報告事項] (1) 苦情解決第三者委員会について (2) 不適切事案について (3) 中期計画策定状況の報告

V その他

令和 5 年3月31日現在

情報公開	定款	役員名簿	評議員名簿	財産目録	事業計画書	事業報告書	役員報酬規程	第三者評価結果	苦情処理結果		
	インターネット	法人HP	法人HP	法人HP	法人HP	法人HP	法人HP	関係団体HP	公表していない		
	広報誌				○	○			○		
	新聞										
	前々年度の財務諸表				前年度の財務諸表						
	貸借対照表	資金収支計算書	事業活動計算書	貸借対照表		資金収支計算書		事業活動計算書			
			公表方法(予定)	公表時期(予定)	公表方法(予定)	公表時期(予定)	公表方法(予定)	公表時期(予定)			
インターネット	法人HP	法人HP	法人HP	法人HP	6月	法人HP	6月	法人HP	6月		
広報誌	○	○	○	○	6月	○	6月	○	6月		
新聞											
外部監査	令和 3 年度	令和 2 年度	平成 31 年度	平成 30 年度	平成 29 年度						
	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)						
	公認会計士										
	監査法人										
	税理士										
	その他										
指摘事項											
第三者評価	受審施設・事業所名	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	平成 31 年度						
		費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)	費用(千円)						
	ひかりのさとのぞみの家			○	203						
	まどか				○	225					
	障がい者活動センター愛光園		○	203							
	ひかりのさとファーム		○	203							
	就職トレーニングセンター			○	180						
	地域生活支援センターりんく										
	愛光園地域居住サポートセンター		○	160							
	あったか生活支援センター		○	28							
阿久比町立もちの木園		○	150								
大府市発達支援センターおひさま		○	203								
									令和 5 年3月31日現在		
準拠している会計基準	社会福祉法人新会計基準	社会福祉法人旧会計基準	経理規程準則	指定介護老人福祉施設等会計処理等取扱指導指針	訪問看護会計・経理準則	介護老人保健施設会計・経理準則	授産会計基準	就労会計基準	病院会計準則	企業会計基準	その他
	○										

令和4年度事業報告

事業所名	ひかりのさとのぞみの家	責任者	倉科由加子
<p>【実施事業】 ○施設入所支援事業 定員 40 名 ○生活介護事業 定員 50 名 ○短期入所事業 定員 4 名</p>			
<p>【重点目標】 <u>重点目標</u></p>			
<p>① 社会福祉法人としての責務として、権利擁護意識を高める取り組みを行うとともに風通しの良い組織運営を目指します。</p> <p>② 地域生活支援として、With コロナの活動を展開します。また災害対策に取り組みます。</p> <p>③ 多様なニーズへの対応として、毎月「のぞミーティング」を通して本人理解を深めていきます。</p> <p>④ 人財の確保育成として、職員会議内でのグループワーク・身体障がいグループ共通の研修に取り組みチーム力を向上します。計画的な面談を通して職員個々の目標を応援します。</p> <p>⑤ 建物設備の保守修繕計画を見直し、優先順位を明確にして施設設備の整備更新に取り組みます。</p>			
<p><u>実施状況</u></p>			
<p>① 7月24日1月22日に虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会を予定通り開催しその情報を職員に周知しました。虐待防止の全職員研修は8月に完了し研修報告書の中からテーマを選定し、9月10月の職員会議内でグループワークを行いました。12月の職員会議内では、誓いの日の取り組みとして「(事件)被害者の痛みには思いをはせる」をテーマに研修を行いました。また施設長が東浦町の自立支援協議会に参加し事業所は地域生活拠点の役割を担ってきました。生活向上委員会に職員を送り出し、県内施設との情報交換を行いました。</p> <p>② 東浦町小中学校6校では職員のみが学校に赴き、住人さんとの交流はZOOMにて福祉実践教室を行いました。6月のコロナ陽性者発生時後に感染対策のBCP(事業継続計画)の見直しを行いました。</p> <p>③ 「のぞミーティング」では毎月個別支援会議対象の住人さんについて情報共有を行い、個別支援目標設定に反映することができました。</p> <p>④ 毎月の職員会議では「心理的安全性」の向上を目標にテーマ設定しグループワークを継続しました。身体障がいグループでは新人研修とグループの連携協力体制の構築を目的に中堅職員研修を行いました。</p> <p>⑤ 電力使用量と寒暖対策を設備維持チーム中心に検討し、取り組んできました。</p>			
<p><u>残された課題とその対応</u></p>			
<p>① 家族との連絡の場を毎月設ける計画でしたが、コロナのため6月のみの実施となりました。家族の高齢化により今年度をもってのぞみの家家族会は解散となり、次年度からは家族懇談会として開催していきます。</p> <p>② 感染症や災害発生時のBCP(事業継続計画)を身体障がいグループで検討することはできませんでした。BCPの職員の周知ができませんでした。今後の継続課題として取り組みます。</p> <p>③ さらなる意思決定支援に取り組むため、毎月開催の「のぞミーティング」を「これからノート」の作成のための意見情報交換の場としていきます。</p> <p>④ 副施設長退職により、年度を通して人員体制が整わず、計画していた年3回は面談を行うことができませんでした。次年度は、面談の方法を検討し、計画的に行っていきます。</p> <p>⑤ 空調設備の更新について具体的な方向性を想定できるように準備するとともに、利用者の重度化に対応した浴室改修などについて積極的に検討を進めていきます。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	障がい者活動センター愛光園	責任者	松澤 賢治
<p>【実施事業】 ○生活介護 定員 36 名</p> <p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <p>① 権利擁護の意識を更に高めていく取り組みをしていきます。災害対策に向けた取り組みを推進していきます。</p> <p>② 通所者一人ひとりの安心できる地域生活の実現に向けて取り組んでいきます。地域の方との相互理解に繋がる活動や情報発信を行っていきます。</p> <p>③ 通所者一人ひとりの様々な思いに合わせた活動の取り組みを実施していきます。通所者・家族のニーズを把握した上で、今後の日中活動の在り方を検討していきます。</p> <p>④ 「やりがいの持てる＝働きやすい職場環境」の実現に向けて取り組んでいきます。支援の質の向上を図ります。</p> <p>⑤ 施設設備の修繕とメンテナンスを計画的に実施します。優先度を決めて実施。</p> <p><u>実施状況</u></p> <p>① 身体拘束適正化委員会に関しては、指針の整備や内容の検討は予定通り行うことができました。ただ内容の検討については、方法等を見直していく必要があります。BCP(事業継続計画)の見直しを実施することはできましたが、再度修正・訂正し、作り直しの課題が残っています。</p> <p>② 短期入所や送迎、今後の地域生活に関しては、必要性の高まった一部の利用者しか検討をしていくことができませんでした。新たな形での交流活動としては、一部の活動グループであるが以前から関わりのあった他事業所の方々と定期的にZOOMを活用して交流を図ることができました。それにより利用者の新たな一面の発見に繋がりました。</p> <p>③ 所属グループ以外への活動参加を積極的に行っていくことを目標としていましたが、一部の利用者だけに留まってしまいました。送迎の希望利用者が数人みえ、その検討を職員会議の中で検討し、送迎体制の方向性を決めてきました。</p> <p>④ 面談は計画通り年2回実施することができました。働きやすい環境については、業務の洗い出しは行うことはできましたが、それを効率化に結び付けていく取り組みにまで繋げていくことができませんでした。毎月定例の会議で行っているケース検討を、小グループに分かれて行うことによって意見の出しやすい雰囲気を作り出すことができました。</p> <p>⑤ 予定していたエアコンの清掃は行うことができたが、その他は故障してからの取り換え修繕となり、計画的な実施はできませんでした。</p> <p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>② 今後の在宅生活の継続や将来の生活に関して、現状利用できる地域のサービスが殆どなく、大きな課題となっています。対応をどのように考えていくか暗礁に乗り上げている状態です。</p> <p>③ 送迎体制の方向性を決めていきましたが、今以上に送迎の希望者がでた場合の対応が課題です。かと言って利用できる地域サービスも殆どない状況です。また入浴希望が増えた場合も今後活動全体を踏まえて検討していく必要があります。</p> <p>④ 働きやすい職場環境として、業務の効率化を図っていく必要がありますが、何をどこを大切にしていかなければならいかを踏まえて実施していくよう検討をしていきます。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	地域生活支援センターりんく	責任者	清水晶
<p>【実施事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共同生活援助事業 定員 30 名 ○居宅介護事業 <p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 権利擁護の意識を高めていく取り組みをします。 ② 風通しの良い職場づくりに努めます。 ③ 利用者・ご家族の高齢化等に対応できるように関係機関との連携を強化すると共に、事業所内においても支援体制を整えていきます。 <p><u>実施状況</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会は、7月コロナ感染の影響で実施できず、10月、1月に開催しました。グループホームにて10月末、12月に不適切な支援の指摘あり、行政への通報、法人に報告、相談を行いました。そのため1月は臨時の虐待防止委員会を開催しました。12月のグループホームおれんちでの不適切支援については、東浦町より2/13虐待認定を受けたため改善計画書を作成し、3月に東浦町へ提出しました。また当該職員に対しては、事業所長からの注意喚起だけでなく、理事長、グループ長の指導も行いました。虐待防止チェックリストは、毎月行う計画で、4～6月は実施できていましたが7月からコロナ感染の影響で実施できませんでした。権利擁護意識を高めていく研修は、コロナ感染の影響もあり、4月、9月、1月のみ実施、1月は全体会議で、不適切支援とクレドを照らし合わせる研修を行いました。勉強会以外では、各ホーム会議で、毎月不適切支援について話し合っており、意識を高めることができました。 ② 職員が相談できる場として面談を年3回実施する計画で、5月から実施したが7月からコロナの影響もあり計画どおり進めることができず、殆どのスタッフが年1回の面談となってしまいました。話しやすい、意見を出しやすい職場環境作りを行うため、全体会議で、意見を出しましたが、具体的な改善にまで繋げることができていません。管理者の各ホーム巡回はできない週もありましたが、勤務で入ることも含めて平均して週1回は行うことができました。 ③ 在宅支援において相談事業所、行政とも連携を強化して支援を行っています。ご家族、ご利用者からのニーズを受けて、愛光園利用者のOT様、りんく在宅利用者のIT様の体験宿泊をわいわいハウスで定期的実施、また東浦町より養護者の虐待案件で、わいわいハウスでのお試し利用も引き受けました。（ご本人さんがコロナになってしまい利用には至らず。）今年度より看護師を配置して、コロナ対応、ご利用者の入退院支援、のぞみの家、愛光園での皮膚科往診対応、排せつ支援、急変時の対応などスタッフと看護師の連携を密にしてご利用者への支援を実施することができています。 <p><u>残された課題とその対応</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 権利擁護の意識、虐待防止の取り組みへの意識を一人ひとりが高めていくことが課題。外部講師を招いての研修など非常勤職員も含めて意識を高める機会を設けていきます。 ② おれんちの虐待認定で目安箱の設置が問題となった。職員同士がコミュニケーションを取る機会を増やすことが課題で、来年度は、全体会議で毎月グループワークを実施していきます。 ③ 支援体制が不十分でニーズに応えきれっていません。現状ではりんくにも限界があるため、相談と連携し、地域での支援体制の構築も考えていく必要があります。 			

令和4年度事業報告

事業所名	まどか	責任者	青山 誠
<p>【実施事業】</p> <p>○施設入所支援 定員 40 名 ○生活介護事業 定員 40 名 ○短期入所事業 定員 2 名 ○日中一時支援事業 定員 2 名</p> <p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <p>① 権利擁護の推進に取り組みます。 ② 風通しの良い職場づくりに努めます。 ③ 地域移行支援を進めます。 ④ その人らしい暮らしの実現に向けて取り組みます。 ⑤ 職員間の連携を強化し、支援技術の向上を図ります。 ⑥ 人間力の向上を図ります。 ⑦ 知的障がいグループ内にて交換研修を実施します。 ⑧ 記録の電子化を図ります。 ⑨ まどかの将来構想の具体化に向けて検討します。</p> <p><u>実施状況</u></p> <p>① 虐待や不適切事案等に対する意識は向上しています。不明なアザなどが続く場合も市町に相談し、委員会でも報告・検討を行うことができました。 ② 定期面談については予定通り行うことができました。日頃のコミュニケーションの活性においては、インカムやLINEWORKS を活用し円滑化を図ることができました。 ③ ご家族の意向やホームの体制が整わず、地域移行を進めることができませんでした。 ④ ご本人の意向（〇〇したい、△△に困っている、など）を話し合うための会議、様式の設定を行いました。運用の充実までには至っていません。 ⑤ 理学療法士による介護技術の講習を1回実施しました。また定期で理学療法士に相談し、個々のケースについて対応できました。 ⑥ 相生木鶏会に毎月参加し美点凝視の視点で学び合うことができました。 ⑦ 新型コロナ感染や職員体制の状況があり、予定通り進めることはできませんでした。ファーム⇄まどかで1名ずつの交換研修を行いました。 ⑧ 記録の電子化を図り、効率化を図ることができました。また LINE WORKS を活用し、情報共有を強化できました。 ⑨ 行政処分の関係で補助金申請が5年間できないことから、具体化まで進められませんでした。</p> <p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>③ 意向調査を再度実施し、2名以上の地域移行に取り組みます。 ④ その人らしい暮らしの実現に向けて、さらに意思決定支援の充実を図っていきます。 ⑤ インシデントプロセス法を活用したケース検討を定期的な実施を予定していましたが、新型コロナの影響から進めることができませんでした。ケース検討会議の充実を図るとともに、自閉症支援の技術向上にも取り組みます。 ⑨ 多床室の課題は解消すべき必須の課題であると考えています。先進事業所の見学などをおして、建て替えに向けての重視すべきコンセプトを明確にしていきます。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	ひかりのさとファーム	責任者	東 悟
<p>【実施事業】</p> <p>○ 就労継続支援B型 定員 10名 生活介護 定員 30名 日中一時支援</p>			
<p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <p>① 権利擁護の取り組みの継続と風通しの良い職場作り</p> <p>② 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会の開催</p> <p>③ 福祉サービス自己評価の実施</p> <p>④ 自然災害・感染症BCP(事業継続計画)の見直し</p> <p>⑥ 利用者の高齢化に対応できるよう認知症研修の実施</p> <p>⑦ 目標工賃平均2万7千円の達成</p> <p>⑧ 部署間交換研修の実施</p>			
<p><u>実施状況</u></p> <p>① 全職員研修及び事業所内のテーマ別研修、職員会議内でのグループワークを通して、権利擁護に関する取り組みを行いました。また、職員面談(年3回)を行い、職員の状況の把握に努めました。</p> <p>② 今年度より、虐待防止・身体拘束適正化委員会として、同時に年2回開催しました。</p> <p>③ 職員をグループに分け、グループ毎に点検項目を分けて自己評価を行いました。</p> <p>④ 前期に自然災害、後期に感染症のBCPを見直しました。</p> <p>⑥ 法人内のデイサービスセンターこぶしの事業所長を講師に招き、職員研修を実施しました。</p> <p>⑦ コロナ禍でレストランの売上が伸び悩んだのと養鶏の産卵数の激減及び、原材料・光熱費の高騰により、月額工賃平均2万3千円に留まりました。</p> <p>⑧ 正職・准職を対象に、自身が所属する部署以外の部署(1カ所)に半日もしくは1日入り、他部署の状況の把握・他部署の職員・利用者との交流を行いました。</p>			
<p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>① 形骸化せずに継続できる取り組みを年度毎に検討します。</p> <p>② 継続した開催と内容の充実を検討します。</p> <p>③ 自己評価で得られたファームの課題への対応と対応後も自己評価を毎年行い、サービスの向上に努めます。</p> <p>④ 職員間での共有と研修・訓練を実施します。変化する状況に合わせBCP(事業継続計画)を随時見直していきます。</p> <p>⑥ 認知症以外の高齢者の特徴の理解と心身の状況に合わせた環境整備を行っていきます。</p> <p>⑦ 各事業の経費の節約と養鶏事業の立て直しにより、まずは、目標工賃平均2万5千円の達成できるように努めます。</p> <p>⑧ 他部署を理解することで、ファーム全体で気遣い・応援できる体制作りに努めます。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	阿久比町立もちの木園	責任者	堀田 学
<p>【実施事業】 ○生活介護 定員 10名 ○就労継続支援B型 定員 10名</p>			
<p>【重点目標】 <u>重点目標</u></p>			
<p>① 社会福祉法人としての責務 権利擁護への意識を高めると同時に、風通しの良い文化・風土を構築します。</p> <p>② 地域生活支援 グループホームへの移行を後押しすると同時に、ご利用者が望まれる自立した生活を営めるよう阿久比町の障害福祉計画に基づいた宿泊体験の機会を設けます。</p> <p>③ 新しい生活様式のもと、ますます多様化するニーズに合わせた支援を提供します。</p> <p>④ 専門的スキルの向上を図ると同時に、法人内にある他事業所との相互理解を深めます。</p> <p>⑤ 阿久比町と建設設備の修繕・更新計画を共有します。</p>			
<p><u>実施状況</u></p> <p>① 虐待防止及び身体拘束適正化委員会を2回実施しました(7月、1月)。第3者委員やご家族はもちろん、行政担当者も参加して下さり、様々な立場から忌憚りの無いご意見を頂きました。家族会は、コロナ禍により中止となる事もありましたが、年6回実施する事ができました。また、SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を活用して広く活動をお伝えする事ができました。</p> <p>② 阿久比町の地域生活支援事業「宿泊体験事業」について、コロナ禍による影響を受けつつも年8回(延べ12名)実施しました。また、「グループホームを考える会」を「自立を考える会」へと名称を改め、年4回開催し、移動支援や短期入所など自立に向けて必要な制度の理解をご家族と一緒に深める事ができました。</p> <p>③ コロナ禍においてイベント等が中止となりましたが、新規の野菜事業等により大幅な収入増となり、就労支援事業収入が前年比164%と前期実績を大きく上回る事ができました。</p> <p>④ コロナ禍による影響もあり外部研修へ職員を送り出す事が出来ませんでした。また、相互理解を深めるべく知的障がいグループ内にて交換研修を行う予定でしたが、人員不足により未実施で終わりました。</p> <p>⑤ 指定管理委託者の阿久比町と年2回運営委員会を開催する事により、修繕及び更新箇所の共有ができ、今後の見通しを持つ事ができました。</p>			
<p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>① ご利用者の日々の様子をお伝えする媒介手段がSNSに偏っていた為、ご家族への情報提供への配慮が不足していました。今後は、「もちの木便り」等の紙媒体による情報提供の更なる充実を図ります。</p> <p>② 目標工賃達成指導員を配置したものの、目標としていた平均月額工賃15,000円は未達成でした。今後は、多機能事業所に求められる生活介護事業とのバランスを保ちつつ、目標設定と実現に努めます。</p> <p>③ 強度行動障害支援者研修など外部研修に派遣する事ができず、もちの木園全体の支援力を底上げする事が不十分でした。今後は、内外研修へ積極的に取り組む事でチーム支援力の向上に努めます。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	愛光園地域居住サポートセンター	責任者	小野 嘉久
<p>【実施事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○愛光園地域居住サポートセンター 共同生活援助事業 定員 54 名 ○あったか生活支援センター 共同生活援助事業 定員 10 名 ○びわの木 福祉ホーム 定員 5 名 <p>【重点目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ・権利擁護の意識を高めます。 ・組織体制の透明性を高め、風通しの良い運営を目指します。 ② ・住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みを考えます。 ・新規利用希望者への情報発信と体験利用をすすめます。 ③ ・重度高齢化への対応していく力を積み上げていきます。 ④ ・職員満足度を上げていく取り組みを継続的に実施します。 ・「事業所版世話人の手引き」を作成し、共通の理解をすすめます。 ・知的障がいグループ内での職員交換研修を実施します。 ⑤ ・設備の老朽化している箇所や必要な設備の更新を計画的更新を行います。 ・各ホームのインターネット環境を整備し、活用します。 <p><u>実施状況</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会を開催することができました。各ホーム会議でのディスカッションを通して困りごとの共有などができました。管理者によるホームの巡回や面談については目標をしていた頻度を達成することができませんでした。 ② 体験利用を2名受け入れ1名入居されましたが、3名が退居されました。 ③ ご利用者ごとの5年後をイメージする時間を設けましたが、全員分を終えることができませんでした。介護保険をご利用されているご利用者においてはケアマネと連携する機会が増えています。 ④ 職員の満足度調査をはじめ、職員へのアンケート等は年3回実施し思いを知る機会となりました。予定していた交換研修は新型コロナの感染拡大・不安定な人員体制のため、派遣・受け入れをすることができませんでした。 ⑤ 各ホームのインターネット環境を整備することができました。設備の更新は必要な修繕にとどまっており計画的にはできていません。 <p><u>残された課題とその対応</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 不適切な支援の可能性がある事例を関係機関と共有が速やかに行われ、事業所内で抱え込まないよう一層取り組みを進めていく必要があります。 ② ホームでの暮らしを希望されている方への体験の機会を提供し続け、安心して暮らせる場として選んでいただく取り組みを継続していきます。 ③ 重度高齢化に伴い、介護技術・知識の必要性が増しています。また、利用するサービスの変更も含めて、相談支援事業所・ケアマネとの連携の強化が一層求められます。 ④ 職員が働き甲斐をもって勤め続けられるように引き続き声を聴かせていただくと同時に、好事例を学び、関係施設との連携強化を図っていく必要があります。 ⑤ クラウドの活用を含めた情報共有方法の改善や間接業務の効率化を図っていきます。 			

令和4年度事業報告

事業所名	就職トレーニングセンター	責任者	辻 孝志
<p>【実施事業】</p> <p>○就労移行支援 定員 20 名 ○就労定着支援 定員 40 名</p> <p>【重点目標】</p> <p>重点目標</p> <p>① 医療/地域関係機関との連携強化を図る</p> <p>② 就職者数 12 名の達成</p> <p>③ 日々の利用率を 80%以上とするため、毎月 1 名新規利用者を獲得する。</p> <p>④ 支援・情報発信等に ICT を活用する。</p> <p>⑤ インターン・社会福祉士実習などの積極的な受け入れを実施する。</p> <p>実施状況</p> <p>① 必要に応じて通院同行やサービス担当者会議などの開催、ご利用者の状況に応じた対応ができていました。</p> <p>② 年間 6 名の方が就職されました。B 型に移行するや、マッチングが円滑に進まない方も数名おり、目標就職者数に達しませんでした。</p> <p>③ 平均利用率 89.3%でした。就職に繋がらない方が滞留したことで結果として利用率が向上しました。</p> <p>④ ご利用者や関係機関とのやりとりで、LINE や Zoom を活用した連絡調整ができました。SNS の更新についても定期的実施でき情報発信ができました。</p> <p>⑤ インターン受け入れに関しては、WEB 形式も含め今年度も積極的に受け入れを実施できました。社会福祉士実習に関しては、初めてではあったものの 3 名の受け入れを実施しました。</p> <p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>① ご利用者によっては、緊急的な関係者での協議が必要な場合があるため、迅速な対応ができるようにしていきます。</p> <p>② アセスメントを丁寧に行い、ミスマッチのないよう求職活動に取り組んでいきます。新たに就労担当者を増員し、スムーズに求職活動できるように取り組みます。</p> <p>③ 利用者の滞留化による利用率の向上ではなく 25 名程度の利用契約を目指し、利用率の向上を図ります。</p> <p>④ 利用者の契約に繋がるような魅力的な情報発信ができるよう見せ方の工夫を図ります。定期的な更新ができるよう持ち回り当番制で進めていきます。</p> <p>⑤ インターン、社会福祉士実習等を計画的に受け入れることができるよう、仕組みを確立します。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	知多地域障害者生活支援センターらいふ	責任者	桑山 利和
<p>【実施事業】</p> <p>○放課後等デイサービス：定員10名 ○居宅介護・行動援護・重度訪問介護 ○移動支援 ○レスパイト事業 ○地域生活支援拠点</p> <p>○委託相談支援事業（ひがしうら相談支援センター・阿久比町障がい者相談支援センター） ○指定特定相談支援 ○指定一般相談（地域移行・地域定着） ○障害児相談支援事業 ○障害者就業・生活支援センター事業 ○障害児等療育支援事業</p> <p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <p>① 権利擁護に取り組み、情報発信に努めるとともに、風通しのよい職場をつくります。 ② 地域生活支援拠点の観点からレスパイトサービスを検討し、地域ニーズに応えられるよう計画相談の体制を見直します。 ③ 重層的支援の視点から、基幹相談・障害児等療育支援事業・障害者就業生活支援センター事業を見直します。 ④ 学生ヘルパー5名、保育士等2名を確保します。相談員を確保します。 ⑤ 建替えまで施設設備が維持できるよう修繕や更新を進めます。</p> <p><u>実施状況</u></p> <p>① 研修、虐待防止委員会や身体拘束適正化委員会の設置、情報発信は行いました。風通しの良い職場づくりのための職員面談は1人当たり年4回を予定していましたが、年度末は実施できず、3回となりました。グループワークを4回実施しました。 ② レスパイト事業は、地域生活支援拠点が機能していない時期に廃止を打ち出すことが難しいため、事業自体は継続することとしました。新規の利用登録は受けません。 計画相談は、らいふとこだまの統合を9月に実施しました。収支は以前より改善しました。 ③ 行政からの受託事業について、次年度からの中期計画を作成する目標でしたが、障害者就業・生活支援センター事業と障害児等療育支援事業は令和5年度をもって受託終了することとし、委託元に伝えました。基幹相談は当面受託を続け、引き続き検討することとしました。 ④ 人材の確保は学生ヘルパー2名にとどまり、厳しい状況が続いています。 相談員の確保・育成は進めることができませんでした。 ⑤ 車の更新は見送り、床・エアコンやパソコン、非常通報装置の更新を行いました。</p> <p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>① 風通しのよい職場づくりに向け、引き続きグループワークを行っていきます。地域生活支援と相談支援が別々になっているので、一緒に行えるようにしていきます。 ② 地域生活支援は複数の事業を行っていて、職員の兼務などもあって正確な収支がわかりづらいです。収支分析を細かく行っただうえで今後の事業の方針を検討していきます。 計画相談は、相談員が減る中でニーズに応えられる体制ややり方の見直しを行います。あわせてケースの他事業所への移管を行っていきます。相談員の不足は地域課題であり、解決に向け、基幹相談として事業の立ち上げ支援に取り組んでいきます。 ③ 障害者就業・生活支援事業と障害児等療育支援事業を、利用者・関係機関にご迷惑をかけないよう次期事業者を引き継ぐことに傾注します。 ④ 支援員や相談員の確保に引き続き取り組みます。 ⑤ らいふの建て替えは当分先になるので、来年度大修繕を行うために準備をします。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	大府市発達支援センターおひさま	責任者	東 千恵子
<p>【実施事業】</p> <p>○児童発達支援 定員 30 名 ○早期療育事業 定員 40 名 ○保育所等訪問支援 ○障害児相談支援 ○おもちゃ図書館事業</p>			
<p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <p>① 権利擁護の意識を高め、法令順守に努めます。 職員が意見相談しやすい環境づくりをすることで風通しの良い運営を行います。</p> <p>② 災害や感染症の発生状況に臨機応変に対応し、サービス提供を継続できるように整えます。</p> <p>③ ご利用者のニーズに対応するために、児童発達支援センターの役割を見直します。</p> <p>④ おひさまが目指す療育の実践のため人財育成に努めます。</p> <p>⑤ 施設に求める機能を再確認して建物設備の計画的な修繕を行っていきます。利用者にとっても職員にとっても、よりよい環境を整えていきます。</p> <p><u>実施状況</u></p> <p>① 虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会を定例として7月と1月に行い、ご家族や外部委員や法人内他事業所管理者の参加により、客観的な質問や意見を頂戴することができました。特に身体拘束に関しては発達支援をすることで変化が生じるので、7月と1月の変化とその要因を報告することができました。ただ、虐待防止マニュアルについては職員周知をしたものの保護者への説明が未実施。意見相談しやすい職場環境づくりとしては全職員年2回の面談を実施。そして、新人職員と中堅職員のグループワークも予定通り実施。感想文から同じ悩みを共有したり違う視点を知る気づきに繋がったりすることができたと感じます。</p> <p>② 自然災害のBCP（事業継続計画）は見直しを行い、国のフォーマットを使用しました。感染症に関するBCP（事業継続計画）は自然災害と同じ国のフォーマットで新たに作成しました。</p> <p>③ 家族支援として夏季と冬季の閉所期間を短縮させることで家族の負担軽減に繋がると共に、家庭での過ごし方を担任が聴き取り、必要に応じて過ごし方を一緒に考えました。</p> <p>④ 職員研修として3グループに分かれ、発達全体を捉えるためのワークシートを用いて、各グループ1人の子どもの姿を発達のカテゴリー別に時系列で記入して気づきを共有しました。また職員アンケートをもとに、新人育成プログラムを作成しました。</p> <p>⑤ LED化や通園バスの更新に向けて大府市と協議しました。</p> <p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>① 虐待防止マニュアルについて保護者説明ができませんでした。来年度に保護者会の時間を頂いて周知を行います。また、風通しのよい運営に向けて、職員同士のコミュニケーションの場確保は継続課題です。職員の提案で様々な階層を含めたグループワークを行うこととします。</p> <p>② BCPの見直しは続ける必要があります。法人の防災委員会と連携し実施していきます。</p> <p>③ 閉所期間を短縮させたことにより、その時行っていた職員研修や環境整備をどう工夫して行うか、または部分的に行わないかを考えていきます。</p> <p>④ 他害があったり情動調整が難しかったりする子どもが多くいる中で、身体（感覚統合）に注目する必要性を感じます。来年度の職員研修のテーマにしていきます。</p> <p>⑤ 築18年以上経過しています。大規模修繕は市の修繕計画に則って行われるため、100万円以下の修繕や設備・備品の更新をしていく必要があります。来年度は乳母車の買替を予定しています。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	老人保健施設 相生	責任者	杉浦修崇
<p>【実施事業】 介護老人保健施設 定員 100 名（短期入所療養介護と障害福祉サービス事業の短期入所含む）</p>			
<p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <p>① 権利擁護の意識を高め、小さな気づきを良い支援につなげるよう、お互いに切磋琢磨し向上できる風土を醸成します。ご利用者の思いを汲み取り、本人主体の視点を重視した支援を実践します。</p> <p>② 介護・支援が必要になっても、住み慣れた地域で生活し続けられるように、コロナ禍の中でも感染対策を施しながらサポートします。</p> <p>③ 地域のニーズを的確に把握し地域貢献を進めます。</p> <p>④ 必要な人財を確保し、職員の育成システムを整えます。労働環境の整備をすすめます。</p> <p>⑤ 建物設備の計画的な修繕を行っていきます。利用者、職員にとって、より良い環境を整えていきます。</p> <p><u>実施状況</u></p> <p>① 権利擁護の研修を2回。セルフチェック2回実施。結果から権利擁護意識の向上が見て取れます。 「これからノート」をケアプランに反映し、ご利用者の思いにそった支援ができる様に整えています。</p> <p>② ターミナルケア 16 名。緊急ショート受け入れ 28 名。 コロナ感染拡大予防対策を強化し、施設内療養者がいる中でも安心安全に受け入れできるように対応してきました。</p> <p>③ 認知症ケア向上の為、認知症リーダー研修 1 名参加。</p> <p>④ ネパールから特定技能実習生 1 名、ベトナムから技能実習生 1 名受け入れました。</p> <p>⑤ ねむのき棟の空調電化工事は入札後に資材を調達して、令和5年4月10日着工としました。 その他、設備の不具合について都度対応しました。</p> <p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>① 身体拘束ゼロを目指し、行動や思いを制限する拘束は廃止できましたが、転落予防目的での4点柵が継続されているケースがあります。本人、家族の希望でもあるが、4点柵は身体拘束に当たる為、引き続き検討を継続していきます。</p> <p>② 医療やリハビリの体制を整えていく事が課題であったが、医師が交代した事で医療の充実が進んでいます。リハビリも人員補充の目途がたっており充実が期待できます。</p> <p>③ 認知症介護実践者研修の参加者が確保できませんでした。更なる認知症ケア向上と介護体制の強化が急務です。</p> <p>④ 来年度フェ大学プロジェクトでの受け入れも予定。バックアップ体制の強化。</p> <p>⑤ 今後は残るさくら棟、わかまつ棟の空調電化。 古い設備の為、大規模な修繕も必要となってきます。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	相生通所リハビリテーション	責任者	山本 茂男
<p>【実施事業】 ○通所リハビリテーション(介護予防通所リハビリテーション含む) 定員 30名)</p> <p>【重点目標】 <u>重点目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 意見要望、ヒヤリハットなど細やかな想いや気づきを丁寧に拾い上げ、支援につなげる仕組みや風土を整えます ② 事業所に求められる「あたりまえのこと」を、全職員が自信を持って「できている」と実感できる組織体制を整えます ③ 日常生活行為の自立支援を意識したリハビリメニューの充実を図ります ④ 支援に対する評価の仕組みを充実させます ⑤ アドバンスケアプランニングを推進し、本人主体の生活を長期的に支援します ⑥ 中長期的な視点を踏まえた、職員育成、研修の仕組みを整えます ⑦ 目標を持ち、働きがいを感じながら、長く勤めることができる職場を作ります ⑧ 基幹設備の計画的更新を実施します <p><u>実施状況</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 通所部門全体で計 818 件のヒヤリハット報告を共有・検討しました ② 一部資料は整理できたものの、職員への周知理解を図るまでには至りませんでした ③ 「相生チャレンジ」という取り組みを開始しました ④ 評価の仕組みは試行錯誤しながら整えている最中です ⑤ マニュアルを整え取り組みを始めたところで、新たな課題も見えてきました ⑥ 定期的な研修は実施できていますが、育成を意識した仕組みの構築が課題です ⑦ 定期的な面談で目標設定、確認ができています ⑧ 収支状況改善せず、予定していた更新は断念しました <p><u>残された課題とその対応</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ② 資料を基にして、職員の周知理解を図っていきます。 ④ 相生チャレンジと連動して、ご本人の意欲や成果を振り返る仕組みも整えていきます ⑤ 高齢事業部全体として ACP の推進に取り組む中で、定着を図っていきます ⑥ 成長・育成につながる研修等の仕組みを模索していきます ⑧ 収支を安定させたいうえで、必要な更新を行っていきます 			

令和4年度事業報告

事業所名	相生指定居宅介護支援事業所	責任者	山本 茂男
<p>【実施事業】 ○指定居宅介護支援</p> <p>【重点目標】 <u>重点目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① ケアプランに本人主体の視点を活かし、可視化します ② 法令遵守徹底します ③ 事業収支を意識し、持ち件数を最適化します。また法人事業への貢献を行います ④ 感染症の発生状況に臨機応変に対応しマネジメントを継続します ⑤ 地域生活継続、看取りなど多様なニーズに対応します ⑥ もくせいの家など小規模事業のサポートシステムを構築します ⑦ 医療的ケア、リハビリ、老健の特性を活かすマネジメントを実施します ⑧ ケアマネ取得目的の学びの場を確保し、職員のキャリアアップを促します ⑨ 車輛更新を実施します <p><u>実施状況</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 改めて意思決定支援を意識し、家族へ配慮しつつ、本人主体を重視しました。 ② 法令違反、不足などなく、運営指導でもよい評価をいただきました ③ 外部機関との折衝など、経営改善に努め前年度よりも良い状況にしました。 ④ 感染症発生時にも支援を継続しました。有事の各事業との連携もスムーズで困難案件になることはありませんでした ⑤ ケース問わず、適切に最適なマネジメントができたと思っています ⑥ 利用者をつなぐだけでなく、緊急対応の連携など準備した ⑦ 今後の医療、看取りを意識した相談支援ができたと思っています ⑧ 職員研修を率先するまでに至っていません ⑨ 年度末に車両の更新のめどが立ちました <p><u>残された課題とその対応</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ⑧ 後継者を育成できておらず、体制として不十分である。魅力を伝え、学ぶ機会を作らなければならない。回数がすくなくとも、まずは実施し足掛かりを作っておきたいです 			

令和4年度事業報告

事業所名	デイサービスセンターこぶし	責任者	山本 茂男
<p>【実施事業】 ○通所介護事業（介護予防・日常生活支援総合事業含む 定員 30名）</p> <p>【重点目標】 <u>重点目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 意見要望、ヒヤリハットなど細やかな想いや気づきを丁寧に拾い上げ、支援につなげる仕組みや風土を整えます ② 事業所に求められる「あたりまえのこと」を、全職員が自信を持って「できている」と実感できる組織体制を整えます ③ 重度ケアを受け止めることができる体制を整えます ④ 認知症進行予防プログラムの充実を図ります ⑤ アドバンスケアプランニングを推進し、本人主体の生活を長期的に支援します ⑥ 中長期的な視点を踏まえた、職員育成、研修の仕組みを整えます ⑦ 目標を持ち、働きがいを感じながら、長く勤めることができる職場を作ります ⑧ 基幹設備の計画的更新を実施します <p><u>実施状況</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 通所部門全体で計 818 件のヒヤリハット報告を共有・検討しました ② 一部資料は整理できたものの、職員への周知理解を図るまでには至りませんでした ③ 看護師の配置要件を満たすことが困難であったため、方針転換しました ④ 「歩みん」「手操」「やろまい」など新たなプログラムも開始しました ⑤ マニュアルを整え取り組みを始めたところで、新たな課題も出てきました ⑥ 定期的な研修は実施できていますが、育成を意識した仕組みの構築が課題です ⑦ 定期的な面談で目標設定、確認が来ています ⑧ 収支状況改善せず、予定していた更新は断念しました <p><u>残された課題とその対応</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ② 資料を基にして、職員の周知理解を図っていきます ③ 看護師の確保等、人材体制の目途がついた時点で、再度検討します ⑤ 高齢事業部全体として ACP の推進に取り組む中で、定着を図っていきます ⑥ 成長・育成につながる研修等の仕組みを模索していきます ⑧ 収支を安定させたいうえで、必要な更新を行っていきます 			

令和4年度事業報告

事業所名	グループホームもくせいの家	責任者	山本 茂男
<p>【実施事業】</p> <p>○認知症対応型共同生活介護（介護予防認知症対応型共同生活介護含む 18名）</p> <p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 認知症進行予防に加え、馴染みの生活を生かした本人主体の視点で、生活が見えるケアプランを作成します ② 虐待防止委員会・虐待防止推進会議の活動をもくせいの家でも各自が実践します ③ 接遇面を強化し、特に認知症ケアにおいて手本を目指します ④ 職員面談の回数を増やし（全職員年2回）コミュニケーションの円滑化を図ります ⑤ 法人内外に向けた情報発信に機関紙・SNSを活用し、地域に知ってもらう努力をします ⑥ 感染症の発生状況に適宜対応し事業継続します ⑦ 相生在宅復帰支援の受け皿として機能します ⑧ ACP（アドバンスケアプランニング）を推進します ⑨ 外部などに学びの場を確保し、自らフィードバックすることで職員のキャリアアップを促します ⑩ 有給取得を促すとともに、定時で終業できるよう、業務整理を図ります ⑪ 新たな勤務体制構築に取り組み人材の安定を実現します ⑫ 建物設備の保守・修繕計画の見直しを図りつつ、優先順位を明確化します <p><u>実施状況</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生活リハビリの視点で専門職の助言もいただきながら実践しました ② 権利擁護を念頭に、本人の尊厳を意識した支援を行いました。虐待はゼロです ③ 丁寧な対応ができるようになりました ④ 面談回数が足りませんでしたが、全体のコミュニケーションは、チームワークの良さで良好だったと思います ⑤ ある程度はSNS発信できました。ご利用者の様子などコロナ化で情報周知が難しい中のご家族への情報周知、地域への宣伝につながったことと思います ⑥ 幸い感染症がありませんでしたが、消毒など予防の賜物と思っています ⑦ 2件対応できました ⑧ 将来を見越し、医療の対応、ついの住処について準備できました ⑨ 人員不足であまりできませんでした ⑩ 利用率5割程度でしたが、定時に終わることは少ない状況を改善できませんでした ⑪ 夜勤の負担感緩和など工夫しましたが、求人への影響を出すには及びませんでした ⑫ 大きな修繕には至っていません <p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>人員の不足、経営面からの課題克服ができず、休止となりました。質的な面で大きな改善が図れた状況でしたのでとても残念で、地域にも申し訳なく思います。</p>			

令和4年度事業報告

事業所名	相生ヘルパーステーション	責任者	三浦 勝
<p>【実施事業】 ○訪問介護 ○介護予防訪問介護相当サービス ○有償サービス</p> <p>【重点目標】 <u>重点目標</u></p> <p>① 社会福祉法人としての責務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・権利擁護の意識を持ち、小さな気づきもお互いに言える職場にします。 ・事業収支を意識し、訪問件数を最適化します。また法人事業への貢献を行います。 ・感染症の発生状況に臨機応変に対応し訪問事業を継続します。 ・生活リハビリを実施し在宅生活の継続をできるようにします。 <p>② 変化する多様なニーズへの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もくせいの家など小規模事業のサポートシステムを構築します。 ・障がい部門と連携し、訪問ニーズに対応します。 <p>③ 人財の確保育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の健康管理・維持に努めます。 ・働きがいのある職場にし、新規人財確保に努めます。 <p>④ 施設設備の整備・更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期点検をし、必要な修繕をし、安全に働けるようにします。 <p><u>実施状況</u></p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止及び身体拘束廃止の研修を全職員に行った（7月）。フローチャートの更新も周知し皆に意識してもらうよう促しました。 ・訪問件数は月平均700件以上で安定していた。コロナの影響もあり、法人内の他事業所への取り組みは進めることができませんでした。 ・コロナ感染者への訪問は実際は出来ておらず、濃厚接触者に該当する方までは感染対策をして訪問を継続させることが出来ました。 ・在宅生活を継続させるため、一緒に掃除や調理などをする方もいるが、リハビリやケアマネジャーとの連携をしておらず計画に載せるところまで至りませんでした。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢部の会議のなかで話には挙がるが、実際のもくせいの家との検討の場を設けることなく、終わってしまいました。その日の訪問の日差があり、同じ時間に決まったヘルパーを派遣するためには、ヘルパーの増員が必要です。 ・なないろの家に平日入浴介助に訪問しています。びわの木で障がい福祉サービスで入る方はいませんでした <p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腰痛予防の研修実施（1月）。コロナ感染で1名療養（8月）。病気が見つかり入院し療養休暇1名（8月～9月）。ケガ等はありませんでした。 ・新たな採用活動の方法を検討する計画だったが、出来ておらず、問い合わせに反応するのみ。新たな採用はゼロでした。 <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務用品、消耗品以外の購入は今年度はしていない。老健で使用していないノートPCを譲り受けたため1台増加。 <p><u>残された課題とその対応</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規人材の確保育成 正規職員1名、非常勤職員10名の体制は引き続き変わっておらず、新たな事業展開をするためにも人材の確保が最優先。正規職員1名で行っている業務やサービス提供責任者の業務を引き継げる人材がいないため、それを担える人事採用が必要です。 			

令和4年度事業報告

事業所名	企画総務部	責任者	皿井常之
<p>【実施事業】</p> <p>○法人本部の事務局として事務の統括。制度動向や地域情勢の情報収集と情報発信。</p>			
<p>【重点目標】</p> <p><u>重点目標</u></p> <p>① 権利擁護の意識を高め、小さな気づきを良い支援につなげるよう、お互いに切磋琢磨し向上できる風土を醸成します。組織体制の透明性をたかめ、社会福祉法人に求められるガバナンス(企業統治)を向上し風通しの良い運営を行います。次期中期経営計画(令和5～7年度)の策定をすすめます。</p> <p>② 法人の事業継続計画(感染症BCP)の強化・見直します。</p> <p>③ 新しい生活様式のもと変化する環境と利用者の状態に合わせて、事業の再編と統合による見直しをすすめます。地域のニーズに応分の貢献が円滑に行えるよう、関係機関と連携しつつ体制の構築を整えます。</p> <p>④ 社会全体の経済活動が変化するなかにあっても必要な人財の確保をすすめます。 時代に対応した新たな人事システムを導入し、育成システム、労働環境の整備を行います。</p> <p>⑤ 建物設備の保守・修繕計画の見直しを図りつつ、優先順位を明確にします。</p>			
<p><u>実施状況</u></p> <p>① 虐待防止推進会議やリーダー研修などグループワークで事例検討して権利擁護意識の向上に努めました。新入職員研修は毎月実施してクレドや権利擁護、アンガーマネジメントなど基本的な知識を身に付け権利擁護の意識向上に努めました。職員面談は年2回実施しましたが風通しの良い状況にはなっていません。中期経営計画は</p> <p>② 防災委員会で事業所のBCPを作成・更新しました。安全衛生委員会で情報共有し、新型コロナ感染拡大防止に努めました。</p> <p>③ フェ科学大学から1期生1名を受入できました。</p> <p>④ 特定技能の外国人材の雇用をすすめた。新人事システムの検討をすすめ、給与体系等の変更案の説明会を実施しました。</p> <p>⑤ 修繕や設備更新などの多くを次年度に持ち越しました。</p>			
<p><u>残された課題とその対応</u></p> <p>① 権利擁護の意識は高まり、不適切が疑われる事案についての通報件数は増えています。虐待防止の視点だけでなく職員の心理的安全性の高い職場とすることでよりよい職場風土を醸成していきます。</p> <p>② 事業所のBCPに法人としての連携を具体化できるようマニュアルを整えていきます。</p> <p>③ フェ科学大学との連携が国際貢献だけでなく人財確保として機能するよう三法人で連携して継続的に取り組んでいきます。EPAや特定技能などでも受け入れ態勢を整えていきます。</p> <p>④ 人財確保のためにフェイスブックやインスタグラムを活用して広く情報発信します。安定して働き続けられるような人事システムにするためキャリアパスや人事考課を見直します。</p> <p>⑤ 事業の再編を含めた修繕計画の見直しを検討します。</p>			

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×	
ひかりのさとのぞみの家	社会福祉法人としての責務	権利擁護の意識を高めていく取り組みをします。	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会を開催し権利擁護の活動を展開します。	◎	7月24日1月22日に虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会を予定通り開催しその情報を職員に周知した。虐待防止の全職員研修は8月に完了し研修報告書の中からテーマを選定し、9月10月の職員会議内でグループワークを行った。12月の職員会議内では、誓いの日の取り組みとして「(事件)被害者の痛み思いをはせる」をテーマに研修を行った。	
			東浦町地域生活拠点の緊急時受け入れ施設としての機能を担います。	◎	施設長が東浦町の自立支援協議会の地域生活拠点ワーキングに参加し事業所として地域生活拠点の役割を担ってきた。今年度緊急受け入れの相談は1件あったが受け入れ実績はない。	
		組織体制の透明性を高め、風通しのよい運営を目指します。	外部からの視点や声を積極的に取り入れ事業所運営に生かします。	○	愛知県身体障害者施設協議会生活向上委員会に職員を送り出し、県内施設との情報交換を行った。虐待防止委員会では外部の参加者から意見をいただき、活動に反映した。家族懇談会はコロナのため1回の開催にとどまった。	
			東海市に新規開設される施設から職員実習を受け入れます。	×	実習契約を行ったが、コロナにより受け入れが中止となった。	
	地域生活支援	Withコロナの活動を展開します。	インターネットを活用した活動や交流の在り方を模索します。	◎	東浦町小中学校6校では職員のみが学校に赴き、住人さんとの交流はZOOMにて福祉実践教室を行った。	
		災害対策を充実させます。	感染症・地震等自然災害に備えたBCP(事業継続計画)を作成します。	△	6月のコロナ陽性者発生時後に感染対策のBCP(事業継続計画)の見直しを行った。自然災害のBCPは見直し・周知ができていない。	
	ニーズへの対応	多様な本人理解をより深めるよう取り組みます。	「のぞみーティング」を毎月開催します。	◎	個別支援会議に向けて該当する住人さんについてエピソードを含めた情報共有の場として今年度新規に会議を設定、本人理解を深めるために一定の成果があった。	
	人財の確保育成	チーム力を向上します。	横のコミュニケーションを円滑にします。	○	毎月の職員会議では「心理的安全性」の向上を目標にテーマ設定しグループワークを継続、また管理層が参加しない「のぞみしゃべり場」は開催時間的に参加者が限られたが職員間のコミュニケーションの場として成果があった。	
			緊急時対応の職員の不安を軽減するため、毎月職員会議内で看護10分研修を開催します。	○	職員会議内容の関係で設定できない月もあったが、感染対策について・8月はコロナ対応の振り返りを行った。新人職員に対しては、夜勤デビューのタイミングで、避難訓練、夜間緊急時対応の確認を行った。	
		身体障がいグループ共通の研修を企画実施します。	○	身体障がいグループでは新人研修とグループの連携・協力体制の構築を目的に中堅職員研修を行った。		
		職員個々の目標を応援します。	年3回の面談とSVでのぞみの家内の縦のコミュニケーションを円滑にします。	△	副施設長退職により、年度を通して人員体制が整わず、計画していた回数の面談を行うことができなかった。	
	施設更新・設備	施設設備の計画的な更新をします。	建物設備の保守修繕計画をみなおし優先順位を明確にして取り組みます。	△	電力使用量と寒暖対策を設備維持チーム中心に検討し、取り組んできたが、保守修繕計画については老朽化に伴う設備の不具合への対処への後追いの形となり計画的に行うことはできなかった。	
	障がい者活動センター愛光園	社会福祉法人としての責務	身体拘束の意識を高めていく取り組みを推進していきます。	①身体拘束等の適正化のための指針を整備していく。 ②身体拘束適正化委員会を実施します。	○	法人統一の身体拘束の指針は整備できた。7月12日、1月23日に虐待防止委員会を開催し、その中で身体拘束適正化委員会を行った。まだその中身については検討していく余地がある。
			虐待防止に関する取り組みを継続し、意識を高めていきます。	①虐待防止委員会の開催2回/年 ②職員セルフチェックリストの実施2回/年 ③セルフチェックリストから見えてきた課題をスタッフ会議で検討していく。 ④日々の振り返りを実施していく。 ⑤権利擁護に関する研修をしていく。	○	①7月12日、1月23日に実施した。②5月と10月の2回実施した。③年2回実施する予定であったが、12月の会議で検討することは出来たが、6月は会議での議題が多く検討する時間を設けることができなかった。④時期が少しずれてしまったが、8月と9月、1月と2月の年2クール実施することができた。⑤外部講師を招いての研修を実施することができなかった。
災害対策に向けた取り組みを推進していきます。			感染症や地震等の災害に備えて事業所・身体障がいグループ内でBCP(事業継続計画)の見直しをし、緊急時の協力体制を構築していきます。	△	BCPの見直しをしていくことは出来たが、完成版を作りこむことまでは出来なかった。身体障がいグループ内での検討をすることは出来なかった。	
地域生活支援		通所者一人ひとりの安心できる地域生活の実現に向けて取り組んでいきます。	通所者・家族のニーズを把握し、将来の生活の道筋を探っていきます。	△	個別面談の内容については職員全体で把握していくことはできた。短期入所や送迎の関係で、相談事業所も含めて相談をする機会を作ってきたが、地域サービスが中々見つからなかった。この項目について一部の利用者しかできなかった。	
	関係事業所と協力しながら地域生活の移行を検討し進めていきます。	関係事業所と協力しながら地域生活の移行を検討し進めていきます。	△	男性利用者2名の地域生活の移行について、グループホームの体験宿泊を実施することができた。女性利用者1名は、相談員に繋げていくことができた。まだまだ将来の生活については課題が多く残っている。		

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×
障がい者活動センター愛光園	地域支援生活	地域の方との相互理解に繋がる活動や情報発信を行っていきます。	コロナの感染状況を踏まえ地域交流に向けての方法を考え、実施していきます。	○	対面での地域交流は難しく、一部の活動グループではZOOMを使ったり、手紙でのやり取りをして交流を図っていた。SNSでの情報発信も活動の様子など週1回のペースで発信をしていた。
	多様なニーズへの対応	通所者一人ひとりの様々な思いに合わせた活動の取り組みを実施していきます。	昨年度に聞き取りをした中に出された思いをできるだけ実現できるように取り組んでいく。	△	所属グループの活動内では、利用者の思いを聞き取りながら活動を展開してきたが、所属グループ以外のグループに参加したいなどの希望に対しては積極的に取り組みを展開していくことができなかった。
		通所者・家族のニーズを把握した上で、今後の日中活動の在り方を検討していきます。	今までの日中活動と通所者・家族のニーズを照らし合わせた上でのあり方を探っていく。	△	前年度の個別面談において、新規の入浴希望が殆どでなかったため検討する必要はなかったが、送迎の希望は数人出てきたので職員会議の中で検討する時間を設け、その方法を考えてきた。3回設ける予定であったが、2回しかできなかった。
	人材の確保と育成	「やりがいの持てる＝働きやすい職場環境」の実現に向けて取り組んでいきます。	面談を年2回実施し、コミュニケーションの円滑化を図ります。	◎	実施日:1回目(5月、6月)、2回目(11月、12月、1月)。1回目は予定通りに実施することができたが、2回目は日々状況により変更・延期があり、2か月半ほどかかってしまった。
			業務の分担を明確にし、その遂行の仕方を見直し実施していきます。	△	職員一人ひとりが抱えている業務の洗い出しをし、まとめる作業をしていくことはできたが、効率化に向けた取り組み・見直しはできなかった。
		支援の質の向上を図ります。	①PTによる研修を定期的に行っていく。 ②法人外研修に積極的に参加していく。 ③新人職員へ3か月間OJTを実施していく。 ④介護福祉士実務者研修参加 1名 ⑤身体障がいグループ共通の研修を実施していく。 ⑥ケース会議を毎月行っていく。	○	①年2回の計画で、5月と10月に実施することはできた。②福祉協会が主催した初任者研修、リーダー研修に参加することはできた。三施設研修もZOOMで実施することができた。③新人職員のOJTについては、その職員の習得ペースが良く、3か月の予定であったが2か月で終わった。④参加者なし。⑤4月に新人職員向けの研修を行った。予定より大幅に遅れてしまったが、10月から中堅職員向けに3グループに分かれて定期的に行うことができた。⑥ケース会議は12月だけ実施することができなかったが、それ以外の月は実施することができた。
施設整備・備	施設設備の修繕とメンテナンスを計画的に実施します。	日々の事業継続に支障をきたす事がないように、優先順位を決めて実施します。	△	全体のエアコンを2年に分けて清掃する予定で、1回目の半分のエアコンを清掃した。床用暖熱機の故障により交換をした。優先順位を決めてというよりも故障による修繕となってしまった。	
地域生活支援センターりんく	と社会福祉法人	権利擁護の意識を高めていく取り組みをします	①虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会を年2回開催し、不適切な支援の防止、改善に繋げていく ②虐待防止チェックリストを月1回実施していく ③クレドを活用するなどして権利擁護について学ぶ機会を月1回設ける	○	①7月コロナ感染の影響で9月に延期するが実施できず。10月に開催となる。10月末、12月に不適切な支援指摘あり。行政への通報、法人に報告、相談を行っている。そのため1月に虐待防止、身体拘束適正化委員会と臨時の虐待防止委員会を実施している。12月のおれんちでの不適切支援については、2/13虐待認定を受け、3月改善計画書を東浦に提出。当該職員と理事長、グループ長が面談を行っている。 ②4～6月は月1回実施できていたが7月からコロナ感染の影響で実施できず。12月に法人全体でのチェックリストを実施している。 ③コロナ感染の影響もあり、研修としては4月、9月、1月のみ実施。1月は全体会議で、不適切支援とクレドを照らし合わせる研修を行っている。勉強会以外では、各ホーム会議で、毎月不適切支援について話し合っており、意識を高めることができています。
		風通しの良い職場づくりに努めます	①職員が相談できる場として、面談を年3回設定していく ②話しやすい、意見を出しやすい職場環境作りを行う ③管理者によるホームの巡回を実施し、気づきを会議の中で共有していく	△	①5月から実施しているがコロナの影響もあり計画どおり進めることできなかった。 ②全体会議で、議題として検討しているが、具体的な改善にまで繋げることができていない。 ③管理者が各ホームに週1回は顔を出すことを意識して行うことはできた。
		組織体制の透明性を高め、風通しの良い運営を目指します	①第三者評価を実施し、事業所運営に活かしていく ②法人内外に向けた情報発信を強化していく ③地域住民の方と交流する機会を設けていく	△	①③についてはコロナ対応に追われ実施することはできなかった。第三者評価は、令和5年度実施予定。②7月にホームご家族向けの機関紙を(りんく通信)発行することができたが、その後コロナ対応等に追われ発行することができなかった。

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×	
地域生活支援センターりんく	地域生活支援	安心・安全な暮らしが維持できるよう、新型コロナウイルス等感染防止対策の継続と、災害の発生に備えて事業所・身体障がいグループ内でBCPを見直し、緊急時の協力体制を構築していきます	地震災害・新型コロナウイルス等感染症のBCPを見直していく	△	災害時のBCPの見直しに取り掛かることができています。感染症対策についても、7月、8月にホームでのコロナ陽性者対応を経験したことを活かしたマニュアルを作成。その後はマニュアルに沿って対応することができています。12月よりりんく感染対策委員会を立ち上げ開催し、コロナ以外の感染対策についても検討している。	
		変化する多様なニーズへの対応	利用者の意思決定を反映させた個別支援計画を作成し、個別化した支援を行います	利用者の意思決定を反映させた個別支援計画を実行していく	○	ホーム会議での意見交換は行っている。ご利用者から出された思いは、計画に上げて、コロナ禍でもできることを取りくむことができています。
			利用者・ご家族の高齢化等に対応できるように関係機関との連携を強化すると共に、事業所内においても支援体制を整えていきます	①利用者・ご家族だけでなく地域のニーズへの対応を関係機関と連携を強化して考えていく ②医療的ケアへの対応やスタッフの相談等看護師と連携して行っていく	◎	①在宅支援において相談事業所、行政とも連携を強化して支援を行っている。ご家族、ご利用者からのニーズを受けて、愛光園利用者のOT様、りんく在宅利用者のIT様の体験宿泊をわいわいハウスで定期的に行っている。また東浦町より養護者の虐待案件で、わいわいハウスでのお試し利用も引き受けたが、ご本人さんがコロナになってしまい流れてしまうこともあった。 ②今年度より看護師を雇用。コロナ対応、ご利用者の入退院支援、のぞみの家、愛光園での皮膚科往診対応、排せつ支援、急変時の対応などスタッフと看護師の連携を密にしてご利用者への支援を実施することができています。
	ACP(人生会議)をもとにした「これからノート」の準備をしていきます	ACP(人生会議)をもとにした「これからノート」の準備をしていく	△	スタッフへの周知については、6月に研修を実施するが時間がなくさわり程度となってしまった。10月にセンター長が共和病院地域フォーラム参加「地域へつなぐACP」の講演を聞き学んでいる。しっかりと理解した上で進めていく必要性を感じ、後半は具体的な取り組みをすることができなかった。		
	人材の確保・育成	支援技術の向上を図ります	事業所内ケース検討を年4回実施していく	事業所内ケース検討を年4回実施していく	△	5月にMS様、NH様のケース検討、10月にTS様のケース検討を実施している。障がい特性や専門的な支援を学ぶことができています。
			身体障がいグループ共通の研修を企画・実施していく	身体障がいグループ共通の研修を企画・実施していく	◎	4月に新人研修、PT研修を企画、実施。10月からは、中堅研修3グループに分けて実施。10月愛光園PT勉強会に1名スタッフ参加。3月に1年目職員グループ内事業所見学体験を実施している。新人研修では、基本的なスキルを学び、中堅研修では研修メンバーのことや、他事業所ことを知る機会となっている。
			知的障がいの方への支援を学ぶため、事業所内で勉強会を実施していく	知的障がいの方への支援を学ぶため、事業所内で勉強会を実施していく	△	事業所内でMS様、NH様の勉強会を実施することができたが、コロナの影響もあり外部講師、アドバイザーの依頼をして勉強会を実施することはできなかった。令和5年度に実施予定。
	まどか	と社して福の社責務人	権利擁護の推進に取り組む。	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会の活動を年2回開催し、適切な支援について事業所の意思統一を図る。	◎	虐待や不適切事案等に対する意識は向上している。不明なアザなどが続く場合も市町に相談し、委員会でも報告・検討を行った。
			災害対策の充実を図る。	感染症の拡大や地震などの被災に備えてBCP(事業継続計画)の充実を図る。	○	BCPを整えることができた。内容について検討を重ね、ブラッシュアップを行っていく必要がある。
			風通しの良い職場づくりに努める。	年2回の定期職員面談を実施し、コミュニケーションの円滑化を図る。	○	定期面談については予定通り行うことができた。日頃のコミュニケーションの活性においては、インカムやLINEWORKSを活用し円滑化を図ることができた。
地域生活支援		地域移行支援を進める。	2名のご利用者のグループホーム移行を進める。	×	ご家族の意向やホームの体制が整わず、進めることができなかった。その他、住宅型有料老人ホームへの移行者1名あり。	
		その人らしい暮らしの実現に向けて取り組む。	個別支援計画、意思形成支援・決定支援の充実を図る。	個別支援計画、意思形成支援・決定支援の充実を図る。	○	ご本人の意向(○○したい、△△に困っている、など)を話し合うための会議、様式の設定を行った。運用の充実までには至っていない。
			自閉症支援の技術を実践に活かす。	自閉症支援の技術を実践に活かす。	○	これまで整えにくかった個々の生活場面について、スケジュールなどを整えてきた。
		地域の社会資源も活用し、ご利用者の個別活動の充実を図る。	地域の社会資源も活用し、ご利用者の個別活動の充実を図る。	△	新型コロナの影響から、積極的に地域での活動を行うことができなかった。	

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×
まどか	変化 する への多 様な ニー ズ	利用ニーズに合わせて日中活動を再編する。	日中活動プロジェクトを立ち上げ、再編を行う。	△	鹿塩棟にて生活介護事業ご利用者を中心とした生活・活動の場として提供することで、ゆったりと落ち着いて過ごしていただけるようになった。事業所全体の日中活動においては、新型コロナ感染などにより体制が整わず、活動内容の見直しに留まり再編にまでは至らなかった。
		短期入所等のご利用者のニーズに専門性をもって応える。また、緊急性の高いニーズにも柔軟に対応していく。	個別ニーズ、地域ニーズの把握を行い、利用時の支援につなげる。	◎	相談の受付は随時行い、ご本人・ご家族だけでなく、相談機関とも連携してニーズを確認してきた。対応の難しいご利用者について、日中活動の事業所に見学へ行くなども行った。緊急性の高いニーズについては随時可能な受け入れを検討し行ってきた。
	人材 の確 保・ 育 成	職員間の連携を強化し、支援技術の向上を図ります。	インシデントプロセス法によるケア会議を継続し、チーム支援の充実を図る。	△	年度当初の5月に1度行うことができたが、以降はケース検討の段取りがうまくいかなかったことや、コロナ禍で対面の会議の中止、他に優先すべき検討課題が多くなり、開催が難しかった。
			高齢化による身体機能の低下に伴い、介護技術の向上を図ります。	○	理学療法士による介護技術の講習を1回実施した。また定期で理学療法士に相談し、個々のケースについて対応できた。
		人間力の向上を図る。	相生木鶏会(月刊雑誌「致知」をテキストにした法人内勉強会)に参加し、人間学について学ぶ。	◎	毎月参加し美点凝視の視点で学び合うことができた。
		知的障がいグループ内にて交換研修を実施する。	グループ内での交換研修を実施することで、相互理解を深め、連携強化を図る。	△	新型コロナ感染や職員体制の状況があり、予定通り進めることはできなかったが、ファームとまどかで1名ずつの交換研修を行った。
	整 備 設 ・ 設 更 備 新 の	現施設の将来に向けた活用を検討し、環境改善のための修繕を実施する。	現施設の継続的な活用を前提に計画的な修繕を実施する。	○	必要な修繕を行うことができたが、トイレやポンプなど緊急の修繕工事が多く発生し、予定外の支出が増えた。スプリンクラーポンプや非常用発電機の試験運転を毎月実施し、設備維持を図った。
		記録の電子化を図る。	記録の電子化により、記録作業の効率化と記録漏れを減らす。	◎	記録の電子化を図り、効率化を図ることができた。またLINEWORKSを活用し、情報共有を強化できた。
		まどかの将来構想の具体化に向けて検討する。	整備内容を具体化する。	△	行政処分の関係で補助金申請が5年間できないことから、具体化まで進められなかった。
	ひ か り の さ と フ ァ ーム	社会 福 祉 法 人 と し て の 責 務	権利擁護意識を高める	◎	権利擁護の全職員研修、接遇チェック3回は予定通り実施できた。しかし、接遇チェックの意見への対応ができていなかった。
権利擁護意識の推進及び風通しの良い職場作り			働き方・職場環境の改善	◎	予定通り、事業所長・副事業所長による年3回の面談を実施できた。その中で出てきた要望・課題にはすぐに対処することができた。
			虐待防止委員会及び身体拘束適正化委員会の定期開催	◎	予定通り、7月と1月に実施できた。
福祉サービスの質の向上			サービス課題の抽出及び改善計画の検討	◎	職員を3グループに分け、自己評価を行った。自己評価で出てきた課題は、担当者を振り分け2023年度の自己評価までに改善予定。
地 域 生 活 支 援		利用者地域との交流の推進	施設外での活動の実施	◎	施設外就労先、外出活動等の施設外での活動は予定通り実施できた。
		自然災害・感染症への対策と利用者の日常生活の維持	自然災害・感染症BCP及び感染症対策マニュアルの見直し	○	自然災害BCPの見直しは行う事ができた。感染症BCPは、来年度5月まで見直し期間を延長した。全体での共有がまだできていない。12月にコロナ感染が広がった。今回の反省をBCPに反映させ対応を改善していく。
多 様 な 対 応 ニ ーズ		重度化・高齢化への対応	安全な施設環境の整備 活動内容の見直し 認知症等の研修の実施	◎	10月に認知症の研修を行った。ヒヤリハットの検討は正職員会議で継続して行っており、結果事故やヒヤリが減少している。
		工賃の向上	B型事業の平均工賃月額27,000円の達成	○	養鶏事業の不振により売上が減ったにもかかわらず、原材料・光熱費の高騰により支出が増え、工賃の平均月額は約23,000円に留まった。
保 人 ・ 財 育 の 成 確		支援スキルと権利擁護意識の向上	事業所内研修の実施 外部研修への参加	◎	年間10回の事業所内勉強会を実施した。内容は、ABAの基礎等の支援スキルに関するもの、権利擁護に関するもの、食糧品衛生に関するもの等、多様な内容を実施した。外部研修は、オンラインの研修も含めて年間合計16回職員を送り出した。

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×
ひかりのさとファーム	人財の確保・育成	職員間の職場環境の違いを理解し、風通しを良くする	相互理解体勢の整備 職員間のコミュニケーションの円滑化	◎	常勤職員を対象に部署間交流研修を各職員1回実施できた。部署の良いところ・課題を研修報告で出してもらい、職員会議で共有した。来年度は、今年度行っていない部署へ行く予定。
		グループ内事業所の理解と職員間の交流	研修方法の検討と実施	○	まどかとファームで交換研修を行い、1名ずつ送り出した。他のグループ内事業所には相手先の事情により派遣することができなかった。
	施設・設備の更新の整備	設備の更新及び修繕	レストラン厨房へのエアコン設置及びその他の修繕計画の検討	◎	レストランへのエアコンの設置は完了し、厨房内の環境が改善した。
		利用記録のデジタル化の検討	利用記録ソフトの選定	×	まどかと同じソフトにする予定だが、予算を確保することが難しく、導入時期は未定となっている。
阿久比町立 もちの木園	と社 し会 て福 の社 責法 務人	権利擁護への意識を高めると同時に、風通しの良い文化・風土を構築します。	権利擁護の意識を高め、より適切な支援を目指す。	◎	虐待防止及び身体拘束適正化委員会を年2回実施できた。
			風通しの良い文化・風土の構築。	○	家族会について、コロナ過の影響もあり2回中止となったが、年6回開催する事ができた。また、ソーシャルネットを活用して活動内容を定期的に地域へ発信できた。
	地域 生活 支援	グループホームへの移行を後押しすると同時に、ご利用者が望まれる自立した生活を営めるよう阿久比町の障害福祉計画に基づいた宿泊体験の機会を増やします。	2名のグループホーム移行	×	人員体制が整わなかった事もあり、移行はもちろん、グループホームでの宿泊体験も未実施で終わった。
			宿泊体験の利用を促し経験と実績を積み重ねると同時に、アセスメントに努め、課題の整理を行う。	○	コロナ感染拡大の影響もあり2回中止となったが、計8回(延べ12名)実施する事ができた。
			宿泊体験事業並びにグループホームについての制度理解と機運向上を図る。	◎	「グループホームを考える会」を「自立を考える会」へと名称を改め、年4回開催する事ができた。
	な変 化に 対し 対応 する 多様 な様 式	新しい生活様式のもと、ますます多様化するニーズに合わせた支援を提供します。	就労継続支援B型の平均月額工賃を15,000円に引き上げる。	△	目標工賃達成指導員は配置できたが、人員不足もあり新規事業(野菜事業)の売上げを伸ばせず、平均月額工賃を15,000円に引き上げる事ができなかった。
			就労移行体験プログラムの実施及び生活介護プログラムの充実。	×	人員体制が整わず、活動プログラムの充実及び就労移行体験プログラムの提供ができなかった。
	確 保人 ・財 育の 成 熟	専門的スキルの向上を図ると同時に、相互理解を深めます。	発達障がいのある方等、専門的な支援を必要とする方へ対応すべく、専門的スキルの向上を図る。	×	コロナ過による影響及び人員不足の為、研修に送り出す事が出来なかった。
			阿久比町との建設設備の修繕・更新計画を共有します。	屋根・壁の塗替え	○
	愛光園地域居住サポートセンター	社会 福祉 法人 として の責 務	権利擁護の意識を高めめます。	小さな気づきを良い支援につなげるために、ヒヤリハット事例の情報収集に努め改善につなげます	△
管理者によるホームの巡回を実施し 普段の困りごとを話す機会を設けます				△	毎月の全ホーム巡回は実施できなかった。困りごとが発生したときの連絡体制はできている。
身体拘束適正化委員会を年2回開催し、理解を深めます				◎	委員会や研修を実施することで、全体の意識は高まっている。引き続き外部委員の意見を取り入れながら改善していく。
組織体制の透明性を高め、風通しのよい運営を目指します。			守るべき関係法令を明文化し、そのリスクについての理解を深めます	△	変更のあった法令の周知はおこなうことができたが、リスト化とそのリスクの周知は行うことができていない。
			年間計画に基づく全職員面談を実施します	△	年間を通して計画していた時期に面談を実施することができなかった。
地域 生活 支援		住み慣れた地域で暮らし続けられる仕組みを考えます。 新規利用希望者への情報発信と体験利用をすすめます。	災害・感染症のBCP(事業継続計画)の充実を図り、有事に備えます	△	十分な見直しが行えていない。
			利用希望がある方へのパンフレットを作成します	×	利用希望者への対応が少ないため、作成しなかった。
		日中活動先と連携し、グループホームへの生活の場の移行をすすめます	△	情報共有・体験利用はおこなってきたが、施設又は在宅からのグループホームへの生活の場の移行はできなかった	

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×
愛光園地域居住サポートセンター	変化するへの多様な対応	重度高齢化への対応をしていくつからを積み上げていきます。	高齢化に対応していくための知識の獲得と連携を強化します	○	ケアマネと情報共有する機会は増えてきている。必要な技術の獲得までには至っていない。
			想定されるご利用者の変化について考えます	△	ご利用者の5年後の生活を想像してみる機会を設けた。日中活動先と共有するまでに至っていない。
			ACP(人生会議)をもとにした「これからノート」を準備し運用します	×	具体的な形として残すことができていない。
	人材の確保・育成	職員満足度を上げていく取り組みを継続的に実施します。	満足度調査を実施し、働き甲斐が高まる取り組みを実施し、効果測定をおこないます	○	満足度調査を実施し、結果をフィードバックすることができた。具体的な取り組みの実施ができず、効果測定が行えていない。
			業務の標準化・マニュアル化や基盤となる考え方を共有します。	×	各ホームの支援マニュアルの整備は進められているが、標準化するまでに至っていない。
			法人内他事業所の理解を深め、連携につなげます。	×	新型コロナの対応や送り出す体制が整わなかったため、受入れ・送り出しとも行うことができなかった。
施設・設備更新の整備	設備の老朽化している箇所や必要な設備の計画的更新をおこないます。	3年先までの大規模修繕・住み替え・改修等を計画します	△	故障による修繕の対応にとどまり、計画的な実施が行えていない。もくせいの家活用での住み替えを実施していく予定。	
		各ホームのインターネット環境を整備し、活用します。	△	各ホームのインターネット環境は整った。業務効率向上のための活用が取り組むことができていない。	
就職トレーニングセンター	社会福祉法人としての責務	人としての尊厳を守る取り組み	虐待防止・身体拘束適正化・ハラスメント防止に関する取り組みを実施し、「しない・させない」事業所となる。	◎	企画されているスケジュールは予定通りこなすことができた。特に、虐待防止・身体拘束適正化については事業所内でも意識が深まってきているように感じるため、このまま継続していく。ハラスメントに関しては、これからさらに理解を深めていく必要があると思われるが、法人内で共有されている部分の基本は押さえられた。
		必要時に迅速な対応ができるような、顔の見える関係性の構築	医療/地域関係機関との連携強化を図る	◎	毎月、通院同行やケア会議など必要にご利用者に対して対応できていた。状況によって、月に何度かケア会議を設けたり、通院同行も職員間で話し合いながら必要方は都度対応できていた。今後も、迅速に対応していけるよう取り組んでいく。
		専門性を活かした活動の実施	大府市自立支援協議会や、商工会、障がい者雇用事業所連絡協議会等との連携強化を図る	◎	大府市自立支援協議会では、協議会の副会長、しんろ・しごと部の副部会長をつとめ、大府市内の障がい者の就労に関する課題の解決に向けた取り組み(障がい者雇用の推進(企業⇄福祉事業所 相互見学会の実施)、(卒業後の進路選択のための特別支援学校保護者向け説明会の実施)、大府市障がい者雇用事業所連絡協議会では、スタートアップセミナーへの参加するなど、計画以上の連携を図ることができた。
地域生活支援	ご利用者の安心・安全な暮らしの維持	感染症・災害に関するBCPの充実を図る	○	就トレ内の避難訓練は、3～4か月おきに実施できた。来年度も計画しながら行っていく。法人の委員会にも参加しBCPの進捗状況や法人の災害時の訓練に参加した。就トレBCPは、ほぼ完成したので細かい所の見直しをしていく。完成したら卓上訓練などとしていく必要がある。	
		【就労移行支援】求職活動サイクルを効果的に回し、就労実績をもって地域社会に貢献します。	年度内就職者数12名の達成	△	実績6名。日々の報連相やPDCAで進捗状況を確認しながら取り組んでいた。アセスメントや実習をしていく中でB型に行く方が数名いた。また、ご利用者の希望する職種と職員の見立ての思いにずれがあり、マッチングが上手くいかなかった方も数名いた。ご利用者も実習を通して自分に合う仕事なのか気づく方もおり、改めて実習の必要性に気づいた。また、実習や面接をし会社から断られた方や、B型に行く方もおり目標実績者数に繋がらなかった。来年度も、しっかりアセスメントし1人でも多く就職に繋げられるよう取り組んでいく。また、複数名見学や実習が重なるときは、新たに求活で動く方を主で担当する職員がいるとスムーズに取り組めると思われる。
		【就労定着支援】安心して働き続けることが出来るよう支援力・環境調整力を向上します	定着支援の充実 定着支援利用者の利用率60%以上とする	△	実績55%。離職者は、定着外の方が3名いた。現在、定着利用者数22名(3/6時点)。訪問前にGoogleフォームを活用して聞き取りをし、業務に影響ができるだけ少なくなるように配慮した。職場の担当者が異動になるなどの環境の変化もあったが、早めに会社訪問に何うなど、丁寧な関わりを心がけた。定着支援が終了する方に対しては、今後の生活を見据えて相談員の方との連携を図った。ご本人、会社の方ともに今後のつながり方についてもお伝えした。

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×	
就職トレーニングセンター	地域生活支援	健全な事業運営	日々の利用率を80%以上とするため、毎月1名新規利用者を獲得する。	○	実績89.3%。目標値+αの数値で推移していく一年であった。特に上半期の数値が高いのは、送り出しのタイミングが合わず、ご利用者の停滞が起きていたことも一因であると考えられるため、その部分も考慮に入れると例年と同様か、やや下降気味と考えられる。他地域、他県の移行支援事業を行っている方とコミュニケーションを取っても、利用率が伸びずに苦労しているという話題は常に尽きなかった。(定員の半数程度しかご利用者がいないという話も複数あった。)	
			多様なニーズへの対応	利用者の個別な就労ニーズへの対応	○	前半は、個別支援計画で利用者それぞれの特性や障害理解について確認を行い、支援の進め方について話し合うことができた。特に最近、発達障がいの方が増え、対応が難しく感じられる方へのかかわり方や声のかけ方など意見を出し合った。7月にはSST勉強会、11月には支援の視点確認、支援者が伝える言葉の意味、本人主体の聞き取りや言葉かけについて学んだ。支援者の思いの押し付けや苦手意識を出してしまうのではなく、利用者が何に困っているのか、対応策はどうしていけば良いかなど考える視点をこれからも意識していきたい。
	人財の確保・育成	専門性の向上 チーム力の向上 活発に意見の出る職場環境づくり	人財育成 OJT・専門性の向上 (就労支援・発達障害・精神障がい)	○	研修の機会はコロナ禍以降としては例年通りであったと思われる。発達障がいの特性や育成歴等がきっかけで、個別対応が必要になるご利用者が増加傾向にあるため、基本的な障がいに関する知識や対応方法、相談支援スキル・伝え方の工夫などを引き続き学ぶことが大切になる。	
			安全運転啓発活動の推進	◎	1年を通して大きな事故や違反もなく終わることが出来ました。チェック表で振り返りをしてみたところ、ほとんどが「守れた」でした。他に「やや守れなかった」は慌てず行動するや、余裕を持って行動する等で、忙しさによるものではありませんが、時間や気持ちにゆとりをもって行動していく。	
	施設備設・設備更新の	安心・安全に働ける環境を整える	支援・情報発信等にICTを活用する。 (SNS、LINE、googleフォーム等)	○	必要なツールについてはうまく活用できた。勤務時間や出勤の曜日の都合で、通常の電話対応が難しい場合などもラインなどを活用して連絡を取り合うことができていた。SNSの更新についても、特定の職員に負担がかかることがあり、改めて役割の札を作って担当制を意識できるようにした。	
			事業所内の安全・衛生対策の継続	○	手洗い・うがい・検温などをして頂く様に日々お伝えしたり、意識して頂くの良い事を、毎月変更して掲示するなどの取り組みをした。気温の変化が大きい日などには、衣類の対応ができていたかなどの確認をしてきた。道具などを安全に扱う事などもお伝えしてきた。職員の意識もある程度高くなれた様に思われた。	
	知多地域障害者生活支援センターらいふ	社会福祉法人としての責務	権利擁護に取り組みます。	権利擁護・虐待防止研修の実施・参加	○	虐待防止研修とアンガーマネジメント研修を、学生アルバイトを含め全員に実施した。
				東浦町・阿久比町での権利擁護・虐待防止研修の実施	○	東浦町では基幹相談の事業として全体で研修会を開催した。阿久比町では協議会の仕組みで希望事業所で実施した。
				身体拘束適正化委員会の設置	○	虐待防止委員会と併せて7月と1月に実施
		事件に関する愛光園・らいふの取り組み、らいふの利用者さんの魅力・状況などを情報発信します。	毎月らいふの機関紙発行	○	毎月発行・発送。1面で事件や虐待防止・権利擁護の取り組みを紹介し、裏面で利用者さんの様子を紹介した。	
フェイスブックを毎週1回以上更新			○	ほぼ毎週更新。途中からインスタグラムと連動させた。記事が放課後等デイサービス中心。相談の魅力を伝えたいが、プライバシーや関係機関との関係もあって難しい。		
風通しの良い職場作りに努めます。	4半期ごとに職員面談を実施	△	3回実施。年度末の4回目は実施できず。			

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×
知多地域障害者生活支援センターらいつ	地域生活支援	感染症が流行してもサービス提供を継続できるように、感染症対策をすすめます。	感染マニュアルの作成	×	BCPの策定を優先する。
			ワークの就職支援30以上 離職20以下	△	就職58件、離職28件。特別支援学校からの就職者をカウントするようになったため就職者は大幅増。従来の基準では31人。退職者は、ケースを引き継いだときにはすでに就労継続が難しい状態になっていたが多かった。そうなる前の連携強化をしていく。
		地域生活拠点・重層的支援の視点からレスパイトサービスの在り方について検討します。	レスパイト事業の将来計画作成	×	地域生活支援拠点の整備が各市町でまだ整っていない。らいつ地域生活支援では複数の事業を行っており、事業ごとの収支がとて見えずらい。細かく収支の分析をしていく。
		計画相談の体制を見直し、地域のニーズに 応えていきます。	お断りするケース0	×	相談員の補充が見込めず新規のケースを受け入れられない。1人あたりの標準件数を20件と明確化したので、ニーズに合わせ相談員の補充を図る。令和5年度から相談事業所立ち上げの仕組み作りに取り組み始めている。東浦では、他事業所と協力して児童のセルフプラン解消に取り組んだ。
	らいつこだま統合後の経営の安定 (収入2000万円)		△	統合は遅れたが、9月に実施。新規はなんとか受け入れているが、多くは受け入れられない。収入1728万円のペース。統合の遅れ、相談員1人あたりの件数20件実現への方法の改善が遅れたことが課題。令和5年度の重点課題として取り組む。	
	変化する多様なニーズの対応	重層的支援の視点から、基幹相談や障害者就業生活支援センターの在り方を検討します。	基幹相談の中期計画案作成	×	相談員の疲弊感等のヒアリングを行ったが、今後については方向性が打ち出されていない。
			ワークの中期計画案作成	△	令和5年度限りで受託終了。早期に次期受託者を決めてもらい、引き継いでいく。
		障害児等療育支援事業の医療的ケア児への役割について整理します。	障害児等療育支援事業の中期計画作成	△	令和5年度限りで受託終了。医療的ケア児は基幹相談で検討。令和5年度は専任の担当者不在のため、事業を縮小した上で法人全体で対応し、次期事業者引き継ぐ。
	人材育成・確保	人財の確保をすすめます。	学生ヘルパー5名 保育士か児童指導員の有資格者2名	△	学生ヘルパー2名のみ(内保育士資格取得者1名)。引き続き募集。
		相談員・異動者の育成の仕組みを整えます。	育成計画の作成と実施	×	面談は行っているが、育成計画作成につながっていない。
	施設設備の整備・更新	建て替えまでの暫定的修繕を進めます。	らいつ相談員増加の環境整備	○	こだまの引っ越しに合わせて、床などを修理や荷物などの整理を行った。相談員が増員してとて狭くなったが、令和5年度に減員したので見直していく。パソコンなどの老朽化が進んでいるので、令和6年ワークの廃止を見据えて更新していく。
		Wi-Fi等の環境を充実させます。	ZOOMで10台同時接続しても切れない環境の整備	△	無線ルーターを1台増設。コロナ禍が収まりつつあり、収支状況を考え、10台接続は見送り。
		車の更新 1台	プレオ(平成14年初年度登録)の更新	△	パソコンとエアコンの更新に変更。パソコン4台、業務用エアコン1台更新。業務用エアコンは職員用の2台も老朽化が進んでいるので近い将来更新が必要。消防の非常通報装置が故障で修理が必要とのことで急遽更新した。
	大府市発達支援センターおひさま	社会福祉法人としての責務	虐待防止委員会の活動を展開し浸透させる。	◎	7月11日と1月17日に虐待防止委員会を行い、翌月の虐待防止推進会議で報告した。また、7月22日に全職員研修を行ったが、欠席だった職員は5回に分けて別日に実施。8月中に終了。
権利擁護の意識を高め、法令順守に努めます。			虐待防止マニュアルを作成し職員周知をして保護者への説明を行う。	△	保護者用と施設従事者用のマニュアルを見直し、12月の会議で職員周知を行った。しかし、2月の保護者会総会で保護者周知を行う予定だったが、年度内最後の保護者が集まる場で出す内容としては適当ではなかったため、次年度別のタイミングで保護者会の場を借りて説明をする。
身体拘束適正化委員会を運営し、職員研修を実施します。			◎	7月11日と1月17日身体拘束適正化委員会を行い、翌月の虐待防止推進会議で報告した。7月22日に全職員研修を行ったが、欠席だった職員は5回に分けて別日に実施。8月中に終了。	

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×
大府市発達支援センターおひさま	社会福祉法人としての責務	職員が意見相談しやすい環境づくりをすることで風通しの良い運営を行います。	職員面談の回数を増やし(全職員年2回)コミュニケーションの円滑化を図る。	◎	6月から8月に全職員面談1回目、10月後半から12月にフィードバック面接含む2回目の全職員面談を行った。個別面談をすると表情等から一定の満足度を得られると感じる。次年度も継続していきたい。
			経験年数に応じてグループワークを行う。	◎	新人職員グループと中堅職員グループに分かれた。経験の浅い職員グループには中堅職員、中堅職員グループには主任が入り、4ヶ月に1回15:10~16:00に茶話会やグループワークをした。12月に振り返りを行ったところ、様々な視点を学べたり共感したりすることができ、概ね良い評価となった。また、該当しなかった職員からも参加希望が出た。
			療育相談グループの3事業所で、月1回他事業所の管理者が会議参加をする。	○	偶数月らいふ、奇数月就職トレーニングセンターの会議に参加。月1回行う療育相談ブロック会議で気付きを共有した。業務の兼ね合いで欠席する日もあったが、8割以上は出席し観察や意見を述べる事ができた。
	地域生活支援	災害や感染症の発生状況に臨機応変に対応し、サービス提供を継続できるように整えます。	2024年BCP(事業継続計画)策定義務化に対応するよう、自然災害と感染症に関するBCP(事業継続計画)を見直しする。	◎	自然災害は見直し、感染症は新規作成をした。国のフォーマットに落とし込む作業をしたが、かなり苦戦をした。運用可能かどうかは今後見直しが必要と感じる。
	多様なニーズへの対応	ご利用者のニーズに対応するために、児童発達支援センターの役割を見直します。	利用率や経営状況を職員で共有し、要因分析することで安定的なサービス提供に繋げる。	△	月末又は月初の職員会議で経営小委員会の資料を共有しながら、利用率の背景を確認したが、年3回の個別支援計画会議など、時期により会議のボリュームが多く、結果共有が十分ではなかった。会議に入れられない時は連絡会(終礼)を活用するなど工夫が必要。
			長期休暇の子どもたちの過ごし方について、おひさまとしてやれることを検討する。	◎	子どもの療育保障や家族の負担軽減を考え、来年度から夏季冬季の休みを減らす調整をした。一方で家庭で過ごす力も必要であるため、家庭での過ごし方を聴き取り、必要に応じて一緒に考えた。
	人財の確保・育成	おひさまが目指す療育の実践のため人財育成に努めます。	身体、情緒、遊びなど一人の子どもの全体発達を捉えるため、ワークシートを用いてグループワークをすることで、アセスメント力の強化を図る。	◎	12月26日に職員研修として3つのグループに分かれて行った。発達に関するそれぞれのカテゴリーの関連性に気づくなど発見を言葉にし合い、最後はグループで発表し全体で共有した。
			ペアを組む職員のOJTだけでは伝えきれないことを他の職員が協力して伝えられるような新人職員の育成プログラムを構築する。	◎	12月の職員会議で議論をして役割分担等を修正した。やれる仕組みから令和5年度運用し、不十分な部分は令和5年度の事業計画に反映。完全体での実施は令和6年度からとなる見通し。
	整備施設・設更備新の	おひさまが目指す療育の実践のため人財育成に努めます。	建物設備の保守・修繕計画の見直しを図りつつ、優先順位を明確化する。	◎	照明のLED化の工事を冬休み中に行った。物の調達の都合で未実施の部分は1月に工事終了。バスの買替についても市の担当と話をしている。
	老人保健施設 相生	社会福祉法人としての責務	権利擁護の意識を高め、小さな気づきを良い支援に繋げる様、お互いに切磋琢磨し向上できる風土を醸成します。	ご利用者の思いを汲み取り本人主体の支援の実践	◎
身体拘束ゼロ				○	ミトン手袋のケースは廃止できたが、4点柵のケースが継続。本人家族の希望で、転落防止の為に4点柵。尊厳を損なう状況ではないが身体拘束として記録等の対応をしないといけない。あとスピーチロックについては今後も意識していく必要がある。
組織体制の透明性を高め、社会福祉法人に求められるガバナンス(企業統治)を向上し風通しの良い運営を行います。			面会制限がある中で、取り組みやご利用者の生活を広く発信	○	地域の感染状況に応じて、リモート面会、アクリル板越しでの面会対応。SNSでの発信。
職員のコミュニケーションの円滑化、事業所内の風通しを良くする。			○	コロナ対応等により職員面談は計画通りの回数は実施できず。	

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×
老人保健施設 相生	地域生活支援	介護が必要になっても住み慣れた地域で生活し続けられるように必要な感染対策をしながらサポートします。	口腔機能の維持向上	○	歯科衛生士による月2回の口腔ケアを実施。100%には至らず。
			画一的な支援内容にならない様に配慮したプランをもとに本人の望む支援を提供	◎	自立支援促進加算を8月から算定。10月に全入所者対象。個別ケアを促進。
			褥瘡予防	○	褥瘡マネジメント加算を算定。褥瘡の発生減少に寄与。
			生活リハビリの充実	△	介護職員の、棟における生活の中でのリハビリという意識は高まっている。
			在宅生活支援	○	緊急での受け入れは年間で28件。在宅復帰延べ人数60名。
			地域貢献	○	看護師が地域のラノに参加。
	多様なニーズ対応	地域のニーズを的確に把握し地域貢献をすすめます。	認知症ケアの向上	△	認知症介護リーダー研修1名参加。
			ACP促進、ターミナルケア充実	○	16名のターミナルケアを実施。
	人財の確保・育成	人財の育成、確保をすすめます。	人の為に役立つことに喜びを感じる職員の育成	○	月刊誌「致知」を用いた木鶏会を毎月実施。コロナの関係で中止した月もあった。
			外部研修への計画的参加	○	コロナの関係で一部計画通りとはいかず。
			介護プロフェッショナルキャリア段位制度の実施	×	当初の計画を見直す必要あり。
			時代に即した新しい勤務体制を検討し導入	×	従来通りの勤務体制のまま。検討進まず。
	施設設備の整備・更新	建物設備の計画的な修繕。利用者、職員にとってより良い環境を整えていきます。	ねむのき棟のオール電化	○	入札等実施し施工事業者を決定。令和5年4月より施行。
			ICT活用促進	×	複数の見守りシステムやアシストスーツのデモを行うが導入までには至らず。スマホ対応のナースコールシステムも見積もりまで。
			備品の品質管理	△	想定外の修繕が多く、予定していたベッドの更新は進まず。備品管理については特定の人に負荷が掛からない様な仕組みづくりが急務。
相生通所リハビリテーション	社会福祉法人としての責務	意見要望、ヒヤリハットなど細やかな想いや気づきを丁寧に取り上げ、支援につなげる仕組みや風土を整えます	◎	通りハ・こぶし共通で、年間計818件のヒヤリハット、15件の意見要望・苦情を共有し、通所運営会議の中で確認・検討する仕組みが定着した	
		事業所に求められる「あたりまえのこと」を、全職員が自信を持って「できている」と実感できる組織体制を整えます	△	法人共通の規定類など、一部を再整理した物の、職員への周知理解を図る行動にまでは至らなかった	
	地域支援生活	日常生活行為の自立支援を意識したリハビリメニューの充実を図ります	○	「相生チャレンジ」という取り組みとして開始したが、まだ整えている途中でもある	

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×	
相生通所リハビリテーション	変化に対する多様な対応	支援に対する評価の仕組みを充実させます	ご利用者自身の頑張りを自身で実感していただける仕組みを構築する	○	「相生チャレンジ」を試行錯誤しながら取り組む中で、ご利用者のやりがい等を見出しつつある	
		アドバンスケアプランニングを推進し、本人主体の生活を長期的に支援します	ケアプラン更新、再アセスメントの際に、ご本人の想いを汲み取る仕組みを整える	○	ACP、SIOSなどのマニュアルを整え、実践できているが、実践した中で検討し直したいことなども新たに出てきている。	
	人材の確保・育成	中長期的な視点を踏まえた、職員育成、研修の仕組みを整えます	職員の入れ替わり、役割の交代があっても、支援体制の維持・発展が滞らないよう、業務体制の整備を行う	△	業務リストの素案は出来たものの、過不足の整理作業中。マニュアルも整備できているものと、未整備のものがある	
			受講するだけでなく、講師・伝え手側を経験することでより深めることができる研修体制を構築する	○	定期的な研修受講は出来ている。発信の機会として通所内の実践発表会で、全介護職員が発表する機会は作れたが、研修講師を務める機会の確保は去年より減ってしまった	
		目標を持ち、働きがいを感じながら、長く勤めることができる職場を作ります	3か月ごとの職員面談と目標設定を行う	◎	通所内で定例的に行うものとして、しっかり定着している	
			当該年度支給年次有給休暇、70%以上消化を目指す	◎	今年度支給有給に対する使用率は、通所全体で105%。計画的に取得できたところも多いが、それ以上にコロナ関連で使用された分も多くある	
	施設・設備更新の整備	基幹設備の計画的更新を実施します	送迎車両の更新	×	収支状況が改善しなかったため、今年度更新は断念した	
			ドライブレコーダーの設置	×	収支状況が改善しなかったため、今年度更新は断念した	
	デイサービスセンターこぶし	社会福祉法人としての責務	意見要望、ヒヤリハットなど細やかな想いや気づきを丁寧に拾い上げ、支援につなげる仕組みや風土を整えます	意見要望、ヒヤリハットを蓄積・分析する仕組みを整え、定着させる	◎	通リハ・こぶし共通で、年間計818件のヒヤリハット、16件の意見要望・苦情を共有し、通所運営会議の中で確認・検討する仕組みが定着した
			事業所に求められる「あたりまえのこと」を、全職員が自信を持って「できている」と実感できる組織体制を整えます	規定、マニュアル等を再整理・再構築し、職員への浸透を行う	△	法人共通の規定類など、一部を再整理した物の、職員への周知理解を図る行動にまでは至らなかった
活地域支援		重度ケアを受け止めることができる体制を整えます	中重度ケア加算算定の要件を満たす、人員・体制を整備する	×	看護師の配置要件を満たすことが困難であったため、加算算定は行わない人員体制へと方針を変更した	
変化に対する多様な対応		認知症進行予防プログラムの充実を図ります	おとなの学校プログラムを中心に、認知症進行予防のプログラムの実施と定期的な評価の仕組みを整える	◎	「歩みん」「手操」「やろまい」など新たなプログラムの構築と、評価システムの職員への伝達、定期的な実施体制が整った	
		アドバンスケアプランニングを推進し、本人主体の生活を長期的に支援します	ケアプラン更新、再アセスメントの際に、ご本人の想いを汲み取る仕組みを整える	○	ACP、SIOSなどのマニュアルを整え、実践できているが、実践した中で検討し直したいことなども新たに出てきている	
人材の確保・育成		中長期的な視点を踏まえた、職員育成、研修の仕組みを整えます	職員の入れ替わり、役割の交代があっても、支援体制の維持・発展が滞らないよう、業務体制の整備を行う	△	業務リストの素案は出来たものの、過不足の整理作業中。マニュアルも整備できているものと、未整備のものがある	
			受講するだけでなく、講師・伝え手側を経験することでより深めることができる研修体制を構築する	○	定期的な研修受講は出来ている。発信の機会として通所内の実践発表会で、全介護職員が発表する機会は作れたが、研修講師を務める機会の確保は去年より減ってしまった	
目標を持ち、働きがいを感じながら、長く勤めることができる職場を作ります		3か月ごとの職員面談と目標設定を行う	3か月ごとの職員面談と目標設定を行う	◎	通所内で定例的に行うものとして、しっかり定着している	
	当該年度支給年次有給休暇、70%以上消化を目指す		◎	今年度支給有給に対する使用率は、通所全体で105%。計画的に取得できたところも多いが、それ以上にコロナ関連で使用された分も多くある		

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×
ハぶし	施設・設備更新の整備	基幹設備の計画的更新を実施します	設備管理リストを作成する	△	予算作成、見直し作業の中で、一部確認・整理ができたが、まだすべてを網羅は出来ていない
			特浴機の更新	×	収支状況が改善しなかったため、今年度更新は断念した
相生ヘルパーステーション	社会福祉責務人としての	虐待防止を推進し、意識向上に努めます。	地域での虐待をなくす	◎	フローチャートの設置、周知もしている。全員へ研修も行っている。虐待通報は無かった
			ガバナンス向上	×	内部監査をする計画だったが、方法のところから検討できておらず未実施
			経営安定	○	月の訪問件数は、月によっては少ない月もあったが、平均701件あり目標の80%は達成できている
	活地域支援	生活リハビリを自宅で継続できる支援	ショート、通所など利用者が自宅でも生活リハを継続できる	×	自宅で一緒に掃除や調理など行う方はあるが、リハビリ事業所との連携は取れていない
			障害福祉サービスへの参画	×	りんくとしてないうの家に入浴介助で訪問している。びわの木の方の訪問は現在ゼロ
	変化するへの対応	小規模事業所のサポート体制	種別を超え、かつ緊急対応も可能な支援体制構築	×	
			グループで勤務など緊急体制が作れる仕組みあり	×	検討は進めていたが具体的な話し合いを行うことが出来なかった
	人材育成の確保	人作りと働き甲斐	新規雇用1以上	×	新たな採用活動方法の検討が出来ておらず未着手で、採用ゼロ
			健康維持	けが予防し働きやすさを増進	△
	の施設整備新備設	設備の整備更新、充実	固定資産物品の計画的更新一覧作成と更新開始	△	事務用品、消耗品の購入以外は、購入していない。計画立ててではなく、老健で使用していないノートPCを譲り受け1台増加
相生指定居宅介護支援事業所	社会福祉の法	ケアプラン向上	プラン実施が権利擁護となるようなプランニングが標準化される	○	本人主体でプランニングできている
			地域生活支援	災害等にも適宜対応する	○
	変化するへの対応	小規模事業所のサポート体制	看取り、地域生活継続を実現できるプランニング	△	少ない件数ながら実施しているが、大きな進展があったわけではない
			グループで勤務など緊急体制が作れる仕組みあり	○	準備はしたが、応援など実施する機会がすくなかった
	保人・材育成の確保	老健の特性を活かす	在宅復帰強化、老健独自サービスへの結び付け	○	実施しているが、件数が少ない
			資格取得者を増やす	動機付けになる活動を実施	×
	の施設整備新備設	計画的備品、車両の更新	車輛更新	△	できなかったが年度末に法人内の財産移管で達成できた

令和4年度事業評価表

事業所	項目	重点目標	目標	評価	評価の目安は、目標に対して、100%以上:◎ 80%以上:○ 一部できた:△ 未着手・全くできていない:×
グループホームもくせいの家	社会福祉法人としての	虐待防止を推進し、意識向上に努めます。	虐待防止と接遇の向上	◎	手本のレベルにできたと自負している
		ガバナンスの向上	法令遵守、モラル向上	◎	上記同様。運営指導でも修正指導などなし
		経営安定	経常利益200万円	×	休止、引越しの過程でマイナスが発生した
	地域生活支援	認知症支援支援の強化	緊急対応で関係機関と連携する	△	機会がなかった
		老健の在宅復帰支援の受け皿として機能する	個別誠意を重視した支援の選択肢を増やす	◎	件数が少ないながらもできた
	変化への対応	ACP(本人会議)推進	将来を見渡せる長期的ケアプランの策定	◎	将来の医療、看取り、意識してプランニングできた
	人材の確保・育成	研修強化	学びフィードバックし全体のレベルアップへ	△	外部研修の機会がすくなくできなかった
		労働環境整備	有給取得60%可能な勤務体制づくり	○	通常の勤務体制ではできなかった(事業所休止時になんとか取り繕った形だったので)
	施設更新・備	計画的修繕を実施	予算と連動した修繕	×	資金難から手を付けることができなかった
	企画総務部	社会福祉法人として	権利擁護意識の向上	入職時に権利擁護についての意識向上	○
組織体制の透明性を高める			自己評価・内部監査の仕組みを検討・実施	○	虐待やハラスメント等の案件は他の事業部長・グループ長を中心に聞き取りするなど客観的な評価をできるようにした。
次期中期計画の策定			令和5～7年の中期計画で新たな展開の方向性を定める	△	大枠の計画を作成することはできたが、具体的な数値目標を設定しきれていない部分の修正して6月理事会へ起案する。
活地域支援		BCPの強化・見直し	感染症BCPの強化見直し	△	法人全体での大枠は示しているが、具体的な連携まで明記できていない
変化する多様な		事業の再編・見直し	人事・財務の視点から事業再編や統合による見直しに参画する	△	事業再編など経営的なシミュレーションして見直しに参画した。引き続き見直し検討していく。
		三法人連携して外国人材の受入	ゆたか福祉会・名古屋ライトハウス・フェエ科学大学と連携し外国人材の受入	○	新型コロナウイルスの影響で遅れていたフェエ科学大学の1期生を受入することができた。
人材の確保・育成		人材の確保	多様な媒体を活用した情報発信と採用活動に必要な人材確保する	△	インスタグラムやフェイスブックを活用し情報発信した。新卒8名採用。採用活動のやり方の変更、学生の動向変化など厳しい状況で中途採用では紹介会社経由の採用も多くなっている。
		新たな人事システムの導入	給与体系を含めた人事システムの細部設計と周知を図る	○	新しい給与体系の説明会を全事業所で行い、対面だけでなくオンラインも活用して周知を図った。人事考課の見直しなど早急に進めていく。
施設更新・備		保守修繕計画の見直し	建物設備の修繕計画の見直しと優先順位を明確にする	×	事業再編や将来計画が十分にできていないこと、令和4年度に予定していた修繕など令和5年度に先送りしたため優先順位を明確にできていない。

	雇用形態	平均勤続年数	平均年齢	職員実人数 (3月末現在)	常勤換算職員数			退職者比率 (正職)	新入職員定着率
					直接処遇職員	その他の職員	合計		
ひかりのさとのぞみの家	正規職員	9.7	38.3 歳	29	24.40	4.00	28.40	13.11%	64.29%
	非常勤	9.0	54.1 歳	35	15.00	9.90	24.90		
							0.00		
まどか	正規職員	10.6	35.1 歳	22	20.60	0.40	21.00		
	非常勤	9.7	57.3 歳	16	6.40	1.50	7.90		
愛光園	正規職員	10.3	32.2 歳	12	11.70	0.00	11.70		
	非常勤	11.7	54.4 歳	19	9.40	2.30	11.70		
居住サポート & あったか	正規職員	18.8	44.1 歳	8	8.30	0.00	8.30		
	非常勤	10.6	64.5 歳	35	21.10	0.60	21.70		
りんく	正規職員	10.4	33.0 歳	21	21.90	0.00	21.90		
	非常勤	8.2	56.6 歳	19	9.10	1.50	10.60		
							0.00		
らいふ 地域生活支援	正規職員	8.5	30.4 歳	10	9.10	0.00	9.10		
	非常勤	10.3	50.4 歳	15	5.40	0.00	5.40		
らいふ 相談	正規職員	17.4	45.0 歳	11	10.90	0.00	10.90		
	非常勤	16.3	52.3 歳	7	5.00	0.00	5.00		
大府市発達 支援センター おひさま	正規職員	11.3	38.8 歳	13	12.00	1.00	13.00		
	非常勤	8.1	51.5 歳	20	6.30	1.10	7.40		
ひかりのさと ファーム	正規職員	9.8	35.4 歳	8	7.30	0.00	7.30		
	非常勤	9.2	52.9 歳	20	13.70	1.60	15.30		
就トレ	正規職員	15.8	40.8 歳	5	5.00	0.00	5.00		
	非常勤	7.3	54.3 歳	3	2.80	0.00	2.80		
阿久比町立 もちの木園	正規職員	18.3	41.8 歳	4	3.50	0.00	3.50		
	非常勤	6.6	53.6 歳	7	3.40	0.00	3.40		
相生	正規職員	8.5	38.3 歳	39	37.40	0.00	37.40		
	非常勤	6.5	45.7 歳	32	20.20	1.10	21.30		
通りハ	正規職員	9.4	42.3 歳	5	6.10	0.00	6.10		
	非常勤	3.0	50.0 歳	7	3.00	0.80	3.80		
							0.00		
居宅介護	正規職員	16.0	39.0 歳	1	1.00	0.00	1.00		
	非常勤	12.7	65.7 歳	3	2.70	0.00	2.70		
相生ヘルパー	正規職員	26.0	47.0 歳	1	1.00	0.00	1.00		
	非常勤	19.0	61.8 歳	10	6.00	0.00	6.00		
こぶし	正規職員	21.0	44.0 歳	1	1.70	0.00	1.70		
	非常勤	4.5	34.6 歳	8	6.80	0.00	6.80		
							0.00		
もくせいの家	正規職員	—	— 歳	0	3.90	0.00	3.90		
	非常勤	—	— 歳	0	0.40	0.60	1.00		
本部・企画総務	正規職員	20.6	48.9 歳	10	0.00	9.30	9.30		
	非常勤	16.6	54.0 歳	5	0.00	3.50	3.50		
合計	正規職員	11.8	37.9 歳	200	185.80	14.70	200.50		
	非常勤	9.8	54.0 歳	261	152.00	23.40	161.20		
				0.0	0.0	0.0	0.00		

		年間稼働率	人件費比率	サービス活動増減差額比率	自己純資産比率	現金預金保有率	ボランティア数	上段実習受入数(人日)	
		定員に対してどれだけ提供できているか	人員配置の厚さ	利益を出しているか	資産の蓄積割合	支払能力		下段実人数	
ひかりのさと のぞみの家	生活介護	86.71%	61.05%	13.54%	43.94%	14.45%	150	177	
	施設入所	97.52%						37	
	短期入所	115.14%							
まどか	生活介護	86.46%	55.55%	17.12%	69.66%	19.28%	75	75	
	施設入所	72.78%						11	
	短期入所	31.78%							
	日中一時	21.10%							
愛光園	生活介護	87.53%	74.42%	5.69%	-102.89%	8.73%	62	85 17	
居住サポート	共同生活援助	81.50%	74.81%	0.01%	72.93%	24.98%	221	24	
あったか	共同生活援助	74.77%						3	
びわの木	福祉ホーム	66.79%							
りんく	共同生活援助	69.53%	71.99%	8.77%	87.34%	22.28%	137	0 0	
らいふ 地域生活支援	日中一時・放デイ	73.83%	71.02%	10.43%	73.89%	7.48%	43	0	
	ホームヘルプ	-							
らいふ 相談	相談	-	79.76%	1.72%	35.82%	62.82%		0	
	ワーク・療育	-	81.63%	0.13%	48.41%	72.25%			
大府市発達 支援センター おひさま	発達支援	84.25%	74.32%	11.70%	68.20%	74.85%	72	389 44	
	早期療育	75.93%							
ひかりのさと ファーム	生活介護	89.07%	59.61%	3.26%	76.26%	30.66%	25	20 1	
	就労B型	116.93%							
就トレ	就労移行	89.37%	57.98%	27.48%	93.37%	38.96%	0	24 3	
	就労定着	56.25%							
阿久比町立 もちの木園	生活介護	105.53%	65.86%	10.66%	67.24%	50.77%	127	15 3	
	就労B型	92.40%							
相生	老人保健施設	87.72%	59.12%	2.96%	-36.43%	18.53%	43	72 31	
通りハ	通りハ	68.96%	69.96%	-31.77%				0 0	
居宅介護	居宅介護	-	96.34%	-11.38%				0	3 1
相生ヘルパー	訪問介護	-	74.33%	17.24%				0	0 0
こぶし	老人デイ	65.66%	62.97%	4.73%	86.79%	0.00%	0	16 2	
もくせいの家	認知症高齢者 共同生活介護	53.96%	95.22%	-20.31%				3	0 0
本部・企画総務	本部・ 企画総務	-	1237.02%	-1759.04%	13.87%	3.03%	0	0	
合計	合計	-	68.04%	2.05%	32.56%	12.99%	958	900 153	